

# 日本消防



- 第28回全国女性消防団員活性化石川大会
- 災害報告 福岡県久留米市消防団／和歌山県海南市消防団

12  
2023

口 絵 第28回全国女性消防団員活性化石川大会

巻頭言 「消防団を中核とした地域防災力の充実・強化に向けて」

..... (公財)長崎県消防協会 会長 川上 清記 ..... 1

令和4年(1~12月)における火災の状況(確定値).....総務省消防庁 防災情報室 ..... 3

日消の動き 新橋仮事務所での最後のお正月.....(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文 ..... 4

特別表彰「まとい」を受賞して 「御船町の安全と安心を目指して」

.....熊本県 御船町消防団 団長 榊 建一 ..... 5

東西南北 (徳島県) 「ちょうどええ ほなけん 住んどる」住みよいわが町を守る

.....東みよし町消防団 団長 河野 良雄 ..... 7

東西南北 (群馬県) 「地域に愛される安中市消防団を目指して」...安中市消防団 団長 萩原 哲也 ..... 9

東西南北 (三重県) 「地域に根付いた消防団~災害に強いまちづくりの基本を目指して~」

.....鳥羽市消防団 団長 押田 幸隆 ..... 11

シンフォニー (長野県) 「伊那市消防団音楽隊の活動について」~演奏活動を通じた防火・防災の広報活動~

.....伊那市消防団音楽隊 隊員 田村 千尋 ..... 13

シンフォニー (京都府) 「これからの女性消防団員の活躍について」

.....京田辺市消防団 団員 坂本 弥紀 ..... 15

第28回全国女性消防団員活性化石川大会を開催.....(公財)日本消防協会 ..... 17

災害報告 令和5年7月の豪雨に伴う久留米市消防団の活動について

.....福岡県久留米市消防団 団長 古賀 誠一 ..... 24

災害報告 「令和5年梅雨前線及び台風第2号による大雨」における海南市消防団の活動について

.....和歌山県海南市消防団 団長 岡室 孝明 ..... 28

令和5年秋の叙勲・褒章受章者を発表.....総務省消防庁 ..... 30

うちの団のPR 「自分たちの村は自分たちが守る」.....秋田県 東成瀬村消防団 ..... 42

うちの名物団員.....秋田県、群馬県、長野県、京都府、滋賀県、徳島県、熊本県、長崎県 ..... 43

消防団の広場(秋田県) 「これまでの活動をふりかえって」.....東成瀬村消防団 団員 佐藤 勝也 ..... 47

編集後記

## 表紙写真説明

加茂の大クス(徳島県東みよし町)国指定特例天然記念物

加茂の大クスは天に向かって大きな枝を広げ、千有余年の歴史を見つめてきた巨樹です。今なお成長を続けており、強い生命力で威風堂々とそびえたち大空にゆったりと枝を広げた姿からは穏やかさと威厳が静かに伝わってきます。

写真提供者：東みよし町消防団員

# 第28回全国女性消防団員活性化石川大会

令和5年11月16日(木) 於 いしかわ総合スポーツセンター

(17頁～23頁に掲載)





## 巻頭言

### 「消防団を中核とした地域防災力の 充実・強化に向けて」

(公財)長崎県消防協会 会長 川上 清記



#### 1 長崎県の紹介

長崎県は、半島と人が住むおよそ70の島々からなり、13市8町で構成される県の面積は約4,100km<sup>2</sup>で、約128万人が生活しています。

その位置は、九州の北西部にあって、壱岐と対馬は、九州と大陸との間に飛び石のように位置し、西方に五島列島が連なっています。

長崎県のほとんどの市町が海に面しており、出入りの多い海岸線の総延長は、4,171kmにもおよび、その長さは、長崎と北海道を往復する長さとはほぼ同じで、北海道につぎ、全国第2位の長さです。

この長い海岸線は、日本海流(黒潮)から分かれて日本海に抜ける、暖流の対馬海流に洗われているため、冬は暖かく夏は涼しい、住みやすい海洋性の気候をもたらしています。

また、リアス式の海岸の美しい景観は、人々の心をなごませるとともに、多くの観光客を集めており、日本で最初に国立公園に指定された雲仙天草国立公園をはじめ、五島列島の変化の多い海岸線や九十九島に代表される西海国立公園、壱岐対馬国定公園、玄海国定公園など、海の景色に恵まれています。

#### 2 長崎県の消防団・消防本部と当協会の概要

長崎県には、令和4年4月1日現在、21の消防団に702の分団があり、18,123人の消防団員と10の消防本部の1,725人の消防職員が、県民の安全・安心のため、日夜、消防防災活

動に携わっています。

長崎県消防協会は、昭和23年6月に設立、平成25年4月に公益財団法人へ移行し、県知事を総裁に推戴し、会長のもと、副会長4名、常務理事1名、理事17名、評議員17名、監事3名、顧問3名で構成されており、消防思想の普及、消防技術の向上と消防活動の強化及び消防団等の活性化を推進する公益目的事業に加え、消防団員の福祉共済事業、互助事業に携わっています。

#### 3 当協会の活動

協会では、防火防災意識の向上と防火防災思想の普及を図り、消防団員の士気の高揚と団結強化を推進するための事業として、6月に消防団大会、9月に防火ポスターコンクール、11月に消防殉職者慰霊祭を実施するとともに、消防団員の技術向上、体力を錬成するための健康増進・資質向上のための研修会等の事業として、8月に2年に1度の県ポンプ操法大会、11月に消防団員指導員研修、3月に女性消防団員研修などを実施しています。

また、消防団員の福祉共済事業のほか、県・市町村・消防団員・民間の寄付により造成した福祉厚生事業基金を運用し、消防団員の弔慰救済、育英などの互助事業を実施しています。そのほか、消防団員応援の店を県内各地で、122店舗登録し、消防団員応援のための優遇事業を実施しています。



#### 4 大きな災害に見舞われてきた長崎県

過去には大きな災害が起こっており、今から65年前の昭和32年7月25日、諫早市を中心とした地域に発生した梅雨前線による集中豪雨「諫早大水害」では、南高来郡瑞穂村西郷（現雲仙市瑞穂町）で24時間降水量が1,109mmという驚異的な降水量を記録し、死者・行方不明者は782人にのぼりました。

40年前の昭和57年7月23日、長崎市を中心とした地域に発生した梅雨前線による集中豪雨「長崎大水害」では、西彼杵郡長与町で23日午後8時までの1時間に187mmの雨量を観測し、死者・行方不明者299名のうち、およそ9割にあたる262名が土石流や崖崩れによって被災しました。

平成3年6月3日の雲仙普賢岳の噴火による大火砕流では、死者・行方不明者は43人にのぼり、その後、山腹や谷筋に堆積した火山灰が降雨によってたびたび土石流を引き起こし、島原市、深江町（現南島原市）で多くの住宅が土石流によって埋没、多くの方々が長期の避難所生活を余儀なくさせられました。

近年においても、「平成30年7月豪雨」や、「令和3年8月の大雨災害」など、甚大な被害を受けておりますが、その度に、全国から心温まる多くのご支援をいただいております、たいへん感謝しております。

#### 5 今後の課題と対応

現在、県および各市町において「消防団を中核とした地域防災力の充実強化」を図るため、消防団活動充実強化対策を実施しています。

人口減少が進む中、消防団員の減少が止まらないことが最大の課題であり、令和5年4月1日現在では17,377人で、この1年で746人の減少となっています。

当協会では、県・市町と連携し、消防団員の確保に向けた各種対策事業に取り組んでおりますが、若年層向け勧誘促進策として全国の効果的な消防団員の勧誘手法などについて研究会を開催するとともに、消防団協力事業所としている事業所を紹介し、消防団協力事業所表示制度の普及、県民への理解促進を図るために製作された動画や、勧誘促進のために製作された動画の活用のほか、地元サッカーチーム「V・ファーレン長崎」との連携によるイベント開催などにより、市町が実施する消防団員勧誘活動、加入促進策を支援しています。

#### 6 終わりに

令和7年度は、長崎市において、第30回全国女性消防団員活性化長崎大会を開催することとしています。全国から多くの消防団員の方々が参加されることを心からお待ちしております。

# 令和4年(1～12月)における火災の状況 (確定値)

総務省消防庁 防災情報室

## ① 総出火件数は36,314件、前年より1,092件の増加

令和4年(1月～12月)における総出火件数は、36,314件で、前年より1,092件(3.1%)増加しています。火災種別では、建物火災が618件増加、林野火災が12件増加、車両火災が103件減少、船舶火災が15件増加、航空機火災が2件増加、その他火災が548件増加しています。

## ② 総死者数は1,452人、前年より35人の増加

火災による総死者数は、1,452人で、前年より35人(2.5%)増加しています。負傷者数は、5,750人で、前年より317人(5.8%)増加しています。

## ③ 住宅火災による死者(放火自殺者等※を除く。)数は972人、前年より6人の増加

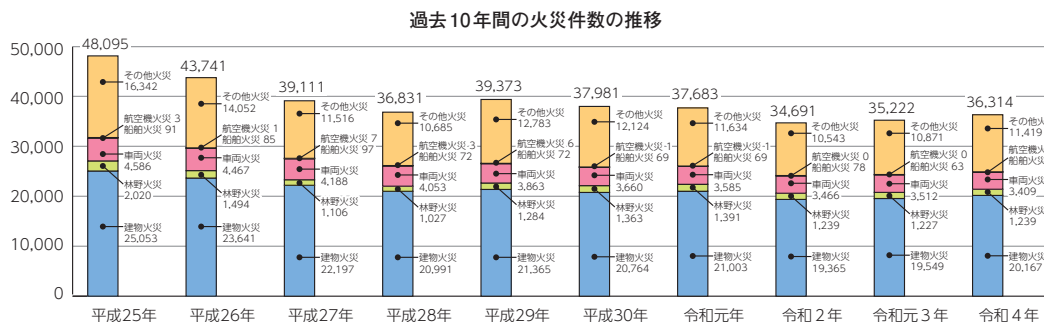
住宅火災による死者(放火自殺者等を除く。)数は972人で、前年より6人(0.6%)増加しています。このうち65歳以上の高齢者は731人で、前年より15人(2.1%)増加し、住宅火災による死者(放火自殺者等を除く。)数の75.2%を占めています。

(※放火自殺(心中を含む。)者及び放火自殺巻き添え・放火殺人の犠牲者。以下同じ。)

## ④ 出火原因として最も多いのは「たばこ」、次いで「たき火」

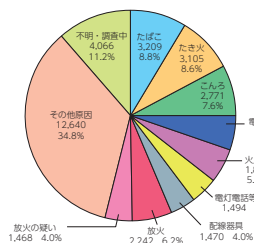
総出火件数36,314件の出火原因別の内訳は、件数の多い順に、「たばこ」3,209件(8.8%)、「たき火」3,105件(8.6%)、「こんろ」2,771件(7.6%)、「放火」2,242件(6.2%)、「電気機器」1,960件(5.4%)となっています。また、「放火」及び「放火の疑い」を合わせると3,710件(10.2%)となっています。

詳細は消防庁ホームページをご覧ください。(https://www.fdma.go.jp/pressrelease/statistics/)

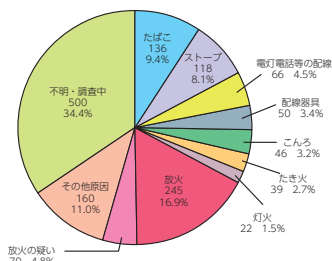


令和4年(1～12月)における火災の状況(確定値)

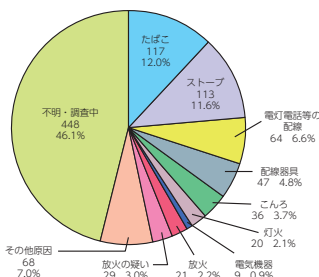
全火災36,314件の  
出火原因別件数の内訳



総死者1,452人の  
出火原因別死者数の内訳



住宅火災における死者  
(放火自殺者等を除く。)972人の  
出火原因別死者数の内訳



## 新橋仮事務所での最後のお正月

(公財)日本消防協会 会長 秋本敏文

日本消防会館改築のため、日本消防協会は、令和2年11月から都内新橋に仮事務所を設けてきましたが、令和6年夏から秋にかけて、他の入居消防関係団体とともに引越しをします。令和6年のお正月は、新橋仮事務所での最後のお正月です。

新橋に引越してみますと、すぐ隣には、明治時代の新橋駅やホーム、記念資料館があり、地名も「汐留」という、いかにも東京の海への最前線であったことがわかりましたし、新橋駅周辺を中心として、一般サラリーマン向けのお安い、おいしそうな飲食店がたくさんあったりして、何だか面白い所です。

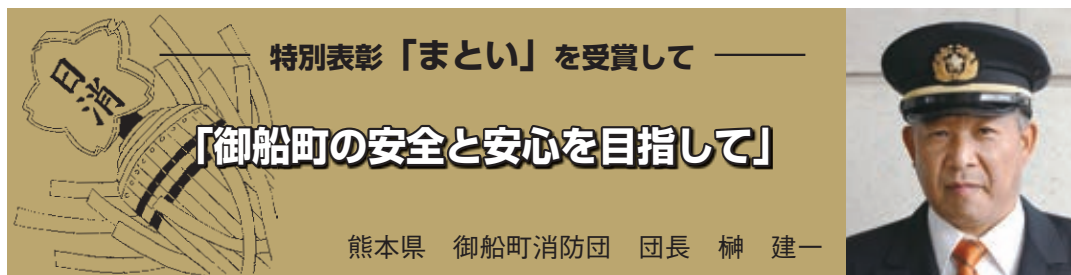
でも、この間は、たまたまコロナウイルス問題が大変な時でした。おいしそうなお店も大勢で行きにくくなりましたし、日消にとって直接大きなダメージがありましたのは、ニッショーホールの利用者大巾減でした。そもそもここに仮事務所を設けたのは、ヤクルトホールと称していた550席のホールがありましたので、旧日消会館ホールのお客様には、こちらのホールを引続きご利用頂いて、さらに新会館完成後の新ホールもご利用頂こうと思っていましたので、大打撃でした。

それはとも角、日本中さまざまな影響があり、消防もコロナ患者の救急搬送があるなど、大変なことになりましたし、さらに、この時期には気象状況の変化が顕在化し、「線状降水帯」の発生による局地的な大雨、これに伴う土石流等の災害が多発しました。気温もドンドン高くなり、令和5年など、春秋がなくて、夏冬しかないといわれる程にもなりました。ロシア・ウクライナ戦争やイスラエル・ハマスの争いなど大変気がかりな事態も発生しました。

そうした、いろいろと対応が必要な事態が次々に生じました。消防操法大会や少年消防クラブ交流会など中止延期したり、規模を縮小したり、また定例の殉職者慰霊祭のように会場は無人状態で開催したりなどしました。中止延期は残念でしたが、関係の方々にご尽力頂いて、何とか元に戻りつつある状態にまでなってきています。この種のことにについては、これからも注意しながら対応しなければならないでしょう。

消防団員の減少傾向はかなり以前から気になる問題でありまして、そのことを意識しながらおよそ20年近くも前に消防応援団を発足させて頂いたのですが、特にこの数年の減少は、かつて経験したことがないものであり、このままでは、本当に我が国の消防体制がどんなことになるか大変気がかりです。ある程度の中高年になると退団される方はおられますから退団者が増加し、一方、若い人たちの入団が減少すれば全体として団員数が減少するというこの傾向がつづきますと、数年後の消防体制はどうなるのか、このことを考えながら対応しなければなりません。令和6年完成の新日本消防会館は、そのような面でも大いに活用しなければなりません。仮事務所最後のお正月後もいろいろな課題があります。





## 1 はじめに

この度、御船町消防団が第75回日本消防協会定例表彰「特別表彰まとい」を受賞しました。

この栄えある受賞は、本町消防団が昭和30年に発足し、今年で68年目を迎える中で、これまでご尽力いただいた先輩方や現役で活動している団員達の功績が認められ、消防団としてこのうえない喜びであり、大変うれしく思います。

本受賞は、消防団員のみならず、消防関係者や団員の家族、地域の皆さま方のご理解とご協力のおかげであり、深く感謝申し上げます。



定例表彰式



桺団長と藤木正幸町長



受賞記念祝賀会

また、今回の受賞を記念して町に受賞記念祝賀会を計画していただき、多くの方にご参加いただき、多くの激励のお言葉を賜りました。

今回の受賞に慢心することなく、他の消防団の見本となるよう、今後も先輩方から受け継がれてきた伝統を継承し、町民の皆さまの生命・身体・財産を守るため、消防活動により一層尽力して参ります。

## 2 御船町の紹介

本町は、熊本市の東南16.6kmに位置し、東西約20km、南北10kmに広がり、総面積99.03km<sup>2</sup>を有しています。

町の西部から中央部は、一級河川緑川の中流部に注ぐ御船川や矢形川の両岸に広がる標高10m前後の平坦地、町の東部は、阿蘇郡との境に標高500m前後の山々が連なる山間地帯となっています。

気候は、内陸的な気象を示し、年平均気温は16.8℃で、降水量は年間2,826mm前後、梅雨期の6～7月が多く、特に梅雨末期には集中豪雨が発生し、大きな災害を引き起こすこともあります。

交通面については、九州縦貫自動車道や九州中央自動車道、国道443号、国道445号が

主要な道路となっており、大きな特徴として、御船インターチェンジ、小池高山インターチェンジ、上野吉無田インターチェンジと3箇所のインターチェンジが立地しており、広域交流の拠点として交通アクセスに優れた町となっています。

また、本町は日本で初めて肉食恐竜の化石が発見されたことから、「恐竜の町」として知られており、恐竜の全身骨格標本などが展示されている恐竜博物館を有し多くの観光客が訪れているほか、近年は、コストコ熊本御船倉庫店をはじめとしたさまざまな事業所を誘致しており賑わいを見せています。

### 3 御船町消防団の紹介

御船町消防団は8分団(27班)350名(女性消防隊を含む)と機能別団員130名で構成されており、それぞれの分団に小型動力ポンプ付積載車を配備しています。

平常時は、毎月1回の正副団長・分団長会議を実施しており、消防団活動をよりよくするための協議や各種行事の確認などを行っています。

また、有事の際に直ちに活動できるよう積載車や小型動力ポンプ、消防水利の点検を随時実施しています。

災害時は、消防団本部(団長・副団長3名)指揮の下、消防署と連携し、町民の安全安心のため、消火活動や救助活動を行っています。

### 4 御船町消防団の活動

御船町消防団は、消防団全体で行う非常呼集訓練をはじめとしたさまざまな訓練を行っているほか、各分団毎に独自で訓練を実施するなど常に備えており、災害が発生した際には直ちに出勤できるよう取り組んでいます。

特に近年は、自然災害が全国各地で激甚化しており、本町も熊本地震をはじめ、毎年のように起こる豪雨災害など、住民の生命・身体・財産を守るため、消防団の役割は地域にとって、より重要になっていると感じております。



出初式

平成28年4月に発生した熊本地震の際には、地域住民の安否確認や避難広報および誘導、避難支援、避難所での焚き出し、災害対策本部への情報提供など、団員も自らが被災しているのにも関わらず、地域住民のために昼夜にわたり活動しました。その結果、倒壊した家屋から1名の方を救出することができました。これは、普段から地域のことを良く理解している消防団員だからこそ、救出することができたのではないかと思います。このような危険を伴う現場も多くありましたが、22日間にわたり延べ2,374人の団員が活動を行い、地域のために貢献しました。

このような活動の経験を踏まえ、今後も御船町の安全安心を守るため日々の消防活動に取り組んで参ります。

### 5 おわりに

今回の受賞は、これまでの消防団員一人一人が積み重ねてきた活動が認められたものであり、消防団員にとってとても励みになりました。この受賞を励みに今後も消防活動により一層尽力して参ります。

また、全国的に消防団員の減少が問題となっていますが、本町も例外ではなく、年々減少傾向にあるため、新たな団員の獲得に向けてさまざまな活動に取り組んで参ります。

最後に、特別表彰まといの受賞にあたり、日本消防協会をはじめ、熊本県消防協会ならびにご支援いただいている地域の皆さまに深く感謝を申し上げ、受賞の挨拶とさせていただきます。



## 「ちようどええ ほなけん 住んどる」 住みよいわが町を守る

東みよし町消防団 団長 河野 良雄



### 1 東みよし町の紹介

東みよし町は平成18年3月1日に三好町と三加茂町の2町が合併し、新たに誕生しました。町の中心には雄大な吉野川が流れており、北は讃岐山脈、南は四国山地の急峻な山々に囲まれ、水と緑に恵まれた豊かな自然を有しています。また、まちの中央部にはスマートインターチェンジを併設した「吉野川ハイウェイオアシス」を備えており、中四国圏域や近畿圏域との欠かせない交流連携の拠点となっています。豊かな自然と文化を感じられるまちであるとともに、商業施設や医療機関などをはじめとした住環境も整っており、子供から高齢者に至る多世代にとって住みやすいまちです。

伝統的に木材加工業が盛んで、浴衣など和装にかかせない桐下駄の生産量は年間7万足で全国一を誇ります。近年では世界最薄水準の木材加工技術0.1ミリの樹の紙を商品化し、内装材の壁紙や、ブックカバー、折り紙、名刺等として販売しています。畜産業や農業も盛んであり、世界でムスリム（イスラム教徒）の人口が増加している中で、ハラール認証を取得し、マレーシアやインドネシアに向けて和牛の輸出を行っており、東南アジアへの和牛輸出のパイオニアとして、日本をけん引する企業もあります。イチゴ生産が盛んで、吉野川沿いの平地で冬イチゴ、平野部から車で30分程度にある標高1,000m

の水の丸高原で夏イチゴが生産されており、イチゴの周年栽培がおこなわれています。

また、東みよし町には、「加茂の大クス」、「美濃田の淵」に代表される自然、体験観光、歴史文化の見どころが盛りだくさんです。のんびり自然を楽しんだり、田舎暮らしを味わったり、地域の人や文化に触れたりすることができます。ぜひお越しいただき豊かな恵みをご堪能ください。

### 2 東みよし町消防団の紹介

東みよし町消防団は、平成18年3月に三好町、三加茂町の2つの消防団が合併し、本団と17分団で発足しました。362名の団員で組織され、うち5名の女性消防団員が機能別消防団員として活動しています。本団指令車1台、消防ポンプ車6台、小型動力ポンプ積載車23台を配備し、住民の安心安全に寄与しています。

徳島県消防操法大会では過去にポンプ車の部及び小型ポンプの部で優勝経験があり、令和4年大会ではでポンプ車の部で準優勝、今回は悲願の全国大会出場を目指しています。

消防団員の減少が課題となっていますが、団員報酬の改善や活動服の更新を行うなど町と協力して団員確保対策に取り組んでいます。





東みよし防災フェスティバル2023

### 3 東みよし町消防団の活動

春には新分団役員等を対象とした辞令交付式を行い、消防の基本である礼式訓練にも力を注いでいます。春、秋の火災予防運動期間には各分団一斉に消火栓等の水利点検を実施し、本団と常備消防本部による防火広報を行いながらの巡視を行います。夏には商工会が主催する花火大会における警戒警備に就き、来場者の皆さんの楽しい思い出作りのお手伝いをするなど地域貢献も行っています。防災の日である9月1日には災害時の非常通信を円滑に行うことを目的として無線通信訓練を実施し、大規模災害へ備えることも忘れていません。年末には12月26日から4日間、年末警戒を実施し、各分団により管轄地域の巡回巡視を行います。年始には伝統行事である出初式を挙行し、気持ちを新たに消防団活動の推進と1年の無火災無災害を誓います。

また、通年で町内の各小中学校や自主防災組織の行う防災研修などに参加し、防災啓発、防災学習の取組を積極的に推進しています。昨年度は徳島県と連携し、「消防団1日体験」を実施し、小中学生を対象にハザードマップを利用した防災学習、資器材の説明、礼式訓練体験、ホース延長訓練、操法訓練の披露を行うなど、

子どもたちにとっては学校で学ぶことのできない活動の体験に協力することができました。学校や子供たちからは好評を得ることができ、また我々消防団員にとっても今後の消防団活動に良い刺激となりました。

### 4 おわりに

近年は、災害の様相も変わり、社会環境にも変化が見られるなど「新たな災害環境」となっています。消防団に求められる役割はより多くなっていますが活動の歩みを止めることはできません。消防団員の確保など多くの課題を抱えていますが、地域住民の期待に応えられるよう日々の点検、訓練はもちろんのこと、消防団員一致団結して消防団活動に取り組み、住みよいわが町を守っていきます。



令和5年出初式



## 「地域に愛される 安中市消防団を目指して」



安中市消防団 団長 萩原 哲也

### 1 安中市の概要

安中市は、平成18年3月に旧安中市と松井田町が新設合併して誕生しました。群馬県の西部に位置し、西は長野県軽井沢町と接しています。人口は、5万5千人余りで、総面積は276.31km<sup>2</sup>になります。古くは東山道、近世には中山道の宿場、関所が置かれるなど交通の要衝であり、現在も市内に新幹線駅1駅、高速道路IC2カ所と立地条件に恵まれ交通・輸送の要所として栄えています。

また、磯部温泉や旧碓氷峠など恵まれた環境を活かした観光事業や交通の便を利点とした商・工業の充実などにより、市の一層の発展・飛躍を期待されています。

### 2 安中市消防団の紹介

安中市消防団は、1本団、14地区分団、ラッパ隊で組織されており、令和5年4月1日現在508名の団員で活動しています。減少傾向にある消防団員を補完するため「機能別消防団員制度」を活用し、現在、消防団OBを中心に43名が機能別消防団員として活躍しています。

また、消防分団詰所34カ所、消防分団車両35台(消防ポンプ自動車20台・小型動力ポンプ積載車15台)を配備し、災害出場に備えています。



YouTube QRコード



### 3 消防団の活動

安中市消防団では、4月の辞令交付式に始まり、5月には出水期に当たり消防団員の士気高揚と技術能力の向上を図ることを目的に、基本結索、応急担架作り、三角巾止血法、心肺蘇生法、チェーンソー取扱いなどを行う水防訓練を実施しています。7月には消防団の機関員を対象に、消防ポンプに対する知識をより深め、ポンプ運用技術の習熟を図るため、消防ポンプ運用研修会を実施しています。今年度においては、消防団員入団促進に向けた消防団PR動画として、活動風景や団員インタビューが撮影され、県の動画発信情報サイト「tsulunos ～群馬県公式～」で配信されました。



水防訓練の様子

10月には火災防御体制の強化、社会公共の安全と安心に資することを目的に、観閲及び姿勢・服装の点検、機械・器具の点検、部隊訓練、ポンプ操法訓練、ラッパ吹奏、分列行進などを行う消防隊秋季点検を実施しています。また、火災予防活動として、春季・秋季の火災予防運動、年末特別警戒を行い、消防団車両により巡回広報等を実施し、火災予防意識の啓発に努めています。教育訓練では、新入団員研修会や幹部研修会、群馬県消防学校への計画的な入校など団員育成を行っています。



消防ポンプ運用研修会の様子

また、安中市消防団の活動力の向上を目指し、女性消防団員を対象とした礼式訓練、放水訓練を実施しました。本訓練は、女性消防団員の意見や要望を受けて企画したもので、今年度が初めての実施となります。



女性消防団員を対象とした訓練

### 4 おわりに

新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」になり、通常通りの水防訓練や秋季点検などの行事が行えるようになりました。

消防団員は、地域防災の中核として欠くことの出来ない代替性のない存在であるとされており、地域防災力向上のために常に先頭に立って邁進し、市民のより一層の安心・安全の確保に努力しなければなりません。

今後も、団員の士気の高揚を図り、また、防災行動力を高め、「自らの地域は自ら守る」という精神に基づき、全団員が一丸となって活動していきたいと考えています。





## 「地域に根付いた消防団 ～災害に強いまちづくり の基本を目指して～」

鳥羽市消防団 団長 押田 幸隆



### 1 鳥羽市の紹介

鳥羽市は、三重県南東部、志摩半島の北東端に位置し、面積は107.34km<sup>2</sup>で市域には4つの有人離島があります。また、市全体が伊勢志摩国立公園に指定されており、観光業と水産業が盛んな風光明媚な街です。

### 2 鳥羽市消防団の紹介

鳥羽市消防団は昭和29年11月町村合併で1町7ヶ村(鳥羽町・加茂村・長岡村・鏡浦村・桃取村・答志村・菅島村・神島村)が合併し鳥羽市となり、旧町村消防団も合併して鳥羽市消防団が発足しました。現在9分団29部で構成されており条例定数490名で団員数は令和5年9月2日時点で444名です。車両は、小型動力ポンプ積載車23台、消防車6台を配備し災害に備えています。

有人離島にも消防団があり、4島に5分団が配置されています。離島には常備消防がないことから有事の際の初動活動を消防団が担っています。

### 3 消防団の活動

鳥羽市消防団の活動は年間を通じて行われており、1月の消防出初式から始まり、4月の春季訓練においては新入団員に対する初任者研修や現団員への基礎訓練を行い夏季訓練、秋季訓練では操法や各種災害に対応した訓練を行っています。また、火災予防運動期間には各分団で火災防ぎょ訓練を行い、一部では常備消防と連携し訓練を行う事で連携強化に努めています。

一昨年度、昨年度は新型コロナウイルス感染症が流行し、市内においても多数の方が感染しました。その為消防団とし



常備消防と連携した訓練の様子

での訓練も中止や規模縮小等となる事が多く思うような訓練が実施できませんでした。しかし、前項でもご説明したおり、離島にあっては消防団員が常備消防にかわり活動を行っています。救急事案では患者を港まで搬送したり、ドクターヘリ離着陸の支援活動を行っています。そのため救急活動を行う消防団員が二次感染しないように消防署員指導のもと感染防止衣着脱訓練を行いました。他にも今年度鳥羽市内において観測史上最大となる24時間で490.5ミリの雨量を観測しました。この大雨で人的被害こそなかったものの、市内各地で浸水や土砂崩れ等がみられ夜通しで排水作業を行った分団もありました。その経験を多くの団員に知ってもらうことが安全な消防団活動に繋がると考え、災害対応を指揮した分団長から活動報告会を実施し、大雨当日の様子を写真

や動画を踏まえながら危険と感じた事や事前に行った活動等の報告がありました。市内で被害がなかった分団からも多くの団員が参加し、情報共有を図ることができました。

#### 4 おわりに

近年は異常気象によるゲリラ豪雨の発生等災害は多種多様となり、市民の安全を確保する消防団活動への期待は年々大きくなっています。しかし、その一方で高齢化と過疎化が進んでいることにより、団員の高齢化や団員数の減少があります。今まで以上に新入団員の加入促進を強化し、地域防災の強化に努めなければなりません。常備消防との連携を深め様々な技術、知識を向上させ、地域に根付いた消防団活動を通じ災害に強いまちづくりの基本になりたいと考えます。



感染防止衣の着脱要領訓練の様子



活動報告会の様子



## シンフォニー（長野県）

### 「伊那市消防団音楽隊の活動について」 ～演奏活動を通じた防火・防災の広報活動～

伊那市消防団音楽隊 隊員 田村 千尋

#### 1 伊那市の紹介

伊那市は、人口が令和5年9月現在65,564人、長野県の南部に位置し、東に南アルプス、西に中央アルプスという二つのアルプスに抱かれ、南アルプス国立公園を中心とするユネスコエコパーク・日本ジオパークのほか、「天下第一の桜」と称される高遠城址公園の桜、「信州そば発祥の地」に由来する高遠そばなどの観光資源があります。

#### 2 伊那市消防団について

伊那市消防団は、団員数789名（男性766人、女性23人）、1本部3方面隊11分団1機能分団の組織構成で、近年は消防団が持続可能な組織であり続けるために、団員が活動しやすい環境整備や行事の見直しなど、様々な取り組みを実施しています。

#### 3 音楽隊の活動

隊員は現在29名（男性13名、女性16名）で構成され、防火・防災の啓発活動及び消防団活動のPRを目的として、保育園や福祉施設、商業施設を訪問しての演奏活動などを行っています。また、子ども達により消防団を身近に感じてもらうため、定期演奏会では市内の中学校とコラボレーションしています。約80名の中学生と行う大合奏は圧巻のステージです。

新たな取り組みとして、令和5年伊那市出初式に合わせて行った「消防フェスタ」では、多くの来場者に演奏を披露し、防火・防災・消防団をPRすることができました。

音楽隊は、平成元年に有志によって設立され、平成18年に機能分団へ格上げされました。演奏を通じた広報活動に限定しており、災害等への出動はありません。演奏する曲目は、行進曲・クラシック・



消防フェスタ





保育園での演奏

映画音楽・ジャズ・ポピュラーなど多岐にわたります。多くの方々に楽しんでいただきながら、市民と消防団との融和を図り、地域に愛される音楽隊を目指し日々練習を重ねています。

#### 4 入団のきっかけ

私は中学、高校と吹奏楽に打ち込んできたのですが、社会人になってからは音楽から離れていました。そんな私が音楽隊に入ったきっかけは、消防団に入団している知人からの誘いでした。数年ブランクがあったので、少し戸惑いましたが、自分の特技を生かしつつ地域のために活動ができることを知り、「自分でもできることがあるならやってみよう!」と入隊を決めました。



練習風景



市内中学生との定期演奏会

練習では、プライベートとの両立が大変なこともあります。同じ志を持った仲間と演奏を通して、地域に役立つ活動ができることを嬉しく思っています。

#### 5 コロナ禍を乗り越えて未来へ

コロナ禍では、約3年間活動が制限されてしまい、それをきっかけに音楽隊を離れる隊員もいました。しかしながら、コロナ禍においても演奏を収録して、地元ケーブルテレビ局で放送したりと、アイデアを出し合いながら、できる活動を行ってきました。放送した演奏動画は、伊那市消防団音楽隊のホームページに掲載してあるので、是非ご覧ください。

このような活動に合わせて地道にPRを行ってきたこともあり、少しずつですが、新入隊員が増えてきています。

災害出動はありませんが、市民と消防団を繋ぐ架け橋のような存在である私たちの演奏が、防火・防災への意識づけに繋がるよう、また、それをきっかけにより多くの方に消防団を知ってもらえるよう今後も練習や活動に努めて参ります。地域の未来に貢献できる音楽隊であり続けるために。



## シンフォニー（京都府） 「これからの女性消防団員の 活躍について」

京田辺市消防団 団員 坂本 弥紀

### 1 はじめに

京田辺市は、京都府の南西部に位置し、大阪府、奈良県との府県境にあり、東には木津川、西には生駒山系に連なる甘南備山が控える豊かな自然に囲まれたまちです。古から交通の要衝として栄えた本市は、南山城地方の行政、経済、文化の中心として発展してきました。

また、現在、大規模な宅地整備が終わり、まちの成熟期を迎える本市にとって、「緑豊かで健康な文化田園都市」を基本構想とし、自然と調和し活気にあふれたまちづくりへと進行しています。

### 2 京田辺市消防団について

京田辺市消防団は現在、坂本消防団長以下265名、うち10名が女性団員で、1本部5分団で構成し、「自分たちのまちは

自分たちで守る。」という郷土愛護精神のもと活動しています。

### 3 女性団員の活動について

女性団員の主な活動は、出初式や水防訓練等における司会進行、消防ポンプ操法訓練支援活動や、さらには、火災予防啓発、応急手当講習会での指導など多種多様に活動しているなか、近年、20年ぶりに復活した木樽演技に力を注いでいます。もともと、木樽演技を始めたきっかけは、他の地域では実施していない演技活動を通じて、より京田辺市消防団を知ってもらいたい、市民の方にとってより身近な存在になることが必要であるとの思いからです。まだまだ、消防団は男性を中心とした組織のイメージで、女性の活動を知らない方が多く、どんな活動を行っ



「たなフェス22」会場の様子

ているのかを知ってもらうことが重要であると思います。

演技訓練は、9月から12月にかけて、週3回、仕事や学校を終えてから夜間、講師を招き訓練を行っていました。初めは、色々指摘され、なかなか合わなかった演技も、みんなの気持ちをぶつける事で合うようになり、演目を完成させることで団結力が芽生え充実感を得ることができました。

初めて披露した京田辺市民まつりでは、緊張で頭が真っ白になりましたが、大勢の市民の方々で大盛況のうちに終えることができ、この活動を行ったことで、地域に貢献しているような気持ちになったのが、今では良い思い出です。



フェスでの演技の様子

#### 4 コロナ禍における女性消防団

2020年1月以降、新型コロナウイルス感染症拡大にともない、外出制限やイベントの中止などにより活動の制約を受けました。これにより定期的な練習や訓練、地域でのイベントや啓発活動が難しくなり、また、消防団の活動に参加する女性メンバー自身も、感染リスクや家族への感染リスクなどを考慮し、活動の自粛を余儀なくされました。

一方で、制約を受けるなか開催された

イベントや行事では、少人数で感染予防対策を徹底し、消防団員の勧誘促進や運営支援など、消防団活動を通して地域社会への貢献活動を行っていました。

さらに、予防対策として、女性や子どもたちに対して火災予防の重要性を訴え、地域の防火意識向上を高め、災害のないまちづくりを目指しました。

このようにコロナ禍においても、女性消防団として役割を果たすことで存在を示すことができたと思っています。



予防啓発活動の様子

#### 5 これからの活動として

アフターコロナ期において、目標としては、女性団員を増やすことです。今、私たちができること、それは女性が参加したくなるような広報活動を行い、消防団活動に興味を持ってもらうこと、また、女性の能力や意見を発揮しやすい環境を整備し、女性団員の存在が、女性や子ども、高齢者に心理的な安心を与えることを発信していきたいと思っています。

これからも、女性団員が一体となり、地域社会における女性の存在を示して行けますよう、まずは、木樽太鼓を通じ消防団の活動を知ってもらい、私たち消防団が地域の希望となり、人々の安心と笑顔を届けられる存在となりますよう尽力していきたいと思っています。



# 第28回全国女性消防団員活性化石川大会 を開催

(公財) 日本消防協会

令和5年11月16日(木)、石川県金沢市のいしかわ総合スポーツセンターにおいて、第28回全国女性消防団員活性化石川大会を開催し、全国から約3,000名の女性消防団員等関係者の方々が参加しました。

全国女性消防団員活性化大会は、全国の女性消防団員が一堂に集い、日頃の活動やその成果を紹介するとともに、意見交換を通じて連携を深めることにより、女性消防団員の活動をより一層活性化させることを目的として毎年開催しています。

第28回全国女性消防団員活性化石川大会は「ようこそ 石川へ 百万石の花と咲け！ 輝く女性消防団」をテーマに掲げ、午前の部では全国の女性団員による防火防災啓発劇や事例等の発表を、午後の部では日本消防協会秋本会長がコーディネーターを務め活動事例発表や女性消防団員とのディスカッションが行われました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症対策として中止となった情報交流会も今大会は4年ぶりの開催となり、石川県の様々な郷土芸能を披露していただき、地域を越えての交流が図られ活気に溢れる大会となりました。

## 大会概要

- 大会名称**  
「第28回全国女性消防団員活性化石川大会」
- 大会テーマ**  
『ようこそ 石川へ 百万石の花と咲け！ 輝く女性消防団』
- 開催日**  
令和5年11月16日(木)
- 開催場所**  
【活性化大会会場】  
いしかわ総合スポーツセンター(石川県金沢市稚日野北222番地)  
【情報交流会会場】  
ホテル金沢(石川県金沢市堀川新町1番1号)
- 主催**  
総務省消防庁  
公益財団法人 日本消防協会  
公益財団法人 石川県消防協会  
第28回全国女性消防団員活性化石川大会実行委員会
- 共催**  
石川県・金沢市

## 大会プログラム

- 8:30 開場
- 9:30 ウェルカムコンサート(石川県内合同消防音楽隊)
- 10:00 開会式
- 10:35 さまざまな活動発表(5団体)
- 11:55 アトラクション  
加賀鷹梯子登り(加賀とびはしご登り保存会)  
女性和太鼓演奏(DIA+)  
のっティ体操消防団ver(野々市市消防団)
- 12:45 記念講演 特別対談  
お笑いタレント山田邦子×石川県知事 馳浩  
「女性団員を含めた女性活躍社会」
- 13:45 事例発表及びシンポジウム  
「女性団員の現状とこれから」
- 15:25 閉会式
- 15:50 閉会

## 開 場



会場の様子  
いしかわ総合スポーツセンター



ウェルカムコンサート  
石川県内合同消防音楽隊



## 開 会 式



大会旗入場

小松市消防団 吉本 佐知子さん  
志賀町消防団 的場 尚恵さん  
七尾市消防団 山吹 風香さん



開会宣言

輪島市消防団  
前江田 美江子さん



主催者挨拶

総務省消防庁 原 邦彰長官



主催者挨拶

公益財団法人日本消防協会 秋本 敏文会長



主催者挨拶

公益財団法人石川県消防協会 鍋谷 有介会長



開催地知事挨拶

石川県 馳 浩知事



開催地市長挨拶

金沢市 村山 卓市長



司会進行

金沢市第三消防団 北川 清美さん  
内 灘 町 消 防 団 濱江 裕子さん  
野々市市消防団 小林 真紀さん

## 防火防災啓発劇



大阪府女性消防団 《おおさか救命体操》

2014年心肺蘇生法の手順を覚えるため、曲に動作を付け、「おおさか救命体操」を作りました。  
ステージでは40人を超える大阪府の女性消防団員で救命体操を披露していただきました。



山口県 山口市消防団

《パネルシアター「けんちゃんまりちゃん」と防災ダンス「さるさるサンバ」》

地震をテーマにした手作りのパネルシアターの発表と「さるさるサンバ」という防災ダンスを使って、  
地震や火事の時の身を守るポーズを紹介していただきました。



大分県 大分市消防団

《大分市オリジナル防災紙芝居(シルルとミルルのおおいたさいがいサーチ)》

大分市の災害リスクにあった独自の防災紙芝居を作成したものです。幼稚園の子供たちが災害を知らない  
シルルとミルルを通じて一緒に災害について学べるような様々な工夫がなされていました。





石川県 小松市消防団 釣川 久子さん

《豪雨災害の経験を機に取り組んでいる「女性分団の出前講座」》

令和4年8月に発生した小松豪雨災害時に何もすることができなかった。その経験から取り組み始めた町内の自主防災訓練等での「女性分団の出前講座」の活動内容を発表していただきました。



和歌山県 和歌山市消防団 加藤 麻友香さん 《ペット防災について》

消防団員として活躍する傍ら普段は動物看護師として働いており、東日本大震災で多くのペットが命を落としてしまったことを教訓とし、注目を集めるペット防災について発表していただきました。

## アトラクション



加賀とびはしご登り保存会  
《加賀鳶梯子登り》



DIA +  
《女性和太鼓演奏》



野々市市消防団第5分団  
《のっティ体操消防団 Ver》



## 記念講演

### テーマ：女性団員を含めた女性活躍社会



特別対談《山田邦子さんと馳浩知事》

お笑いタレント山田邦子さんをゲストに迎え、石川県馳浩知事と対談を行いました。山田邦子さんからは消防応援団としての活動についてや女性消防団員への思い、馳知事からは石川県の魅力や女性活躍社会の推進についてなどが語られ、最後は山田邦子さんから女性消防団員に対する激励メッセージをいただきました。

## シンポジウム(事例発表とパネルディスカッション)

### テーマ：女性団員の現状とこれから



(公財)日本消防協会秋本敏文会長がコーディネーターとなり、テーマを《女性団員の現状とこれから》と題して、色々な取り組みや課題の経験談を交えて全国各地で消防・防災分野で活躍する女性消防団員とともに、意見交換をしました。

冒頭、シンポジウムに先駆けてコーディネーターの秋本会長から挨拶、パネリストの紹介及びシンポジウム進行について説明があった後、大仙市消防団一色順子さんの『コロナ禍で見つけた！私たちの新たな消防団活動「リユースグッズ大作戦！」』と題した発表を、次いで赤羽消防団東海林さくらさんの『消防団とジェンダー観—男性社会

#### パネリスト

(公財)沖縄県消防協会 会長	久高 清美さん
石川県 小松市消防団	釣川 久子さん
和歌山県 和歌山市消防団	加藤 麻友香さん
秋田県 大仙市消防団	一色 順子さん
東京都 赤羽消防団	東海林 さくらさん

#### コーディネーター

(公財)日本消防協会

秋本敏文会長



一色 順子さん



東海林 さくらさん



久高 清美さん

における女性消防団員—』の発表を行っていただきました。

(公財)沖縄県消防協会久高清美会長やパネリストをはじめ会場からも、女性消防団員の今後の活動について日頃から考えていることなどが発言され、とても活発な議論が行われました。



秋本敏文会長

## 閉 会 式

### 大会宣言

#### ようこそ石川へ

全国から女性消防団員が、百万石の文化が根付くここ金沢に集い、様々な地域で輝く女性消防団員の姿を共有し、皆様との絆を深めました。

今、全国各地では大きな災害が後を絶ちませんが、本日ここにいる女性消防団員が集まれば、百人百色それぞれの力を合わせて、何があっても乗り越えられます。

私たちは、各地で色とりどりの個性を咲かせ、地域防災という同じ志を持つ仲間たちと共にひとつの大きな花束のような力となり、私たちの大切な人々の暮らしや命を守っていくことを宣言します。



大会宣言  
加賀市消防団 南 香名さん

### お礼の言葉

本日は多くのご来賓の方々のご臨席のもと、全国各地より女性消防団員の皆様にご参加をいただき、第28回全国女性消防団員活性化石川大会をこのように盛大に開催できたことを、心から感謝申し上げます。

また、近年は全国的に自然災害が相次いでおり、石川県では今年5月に奥能登地震、7月には記録的豪雨による大きな災害が発生し、その際には全国の皆様から暖かい励ましやご支援をいただき、大きな支えとなりました。併せて感謝申し上げます。

私たちは、この意義ある大会を通じて、全国の女性消防団員と交流を深め、同じ志を持つ仲間とともに、大切な家族や地域の安心・安全を守る一員として、これからも消防団活動の活性化と地域防災力の充実強化に邁進してまいります。

結びに、この大会の開催にご尽力いただきました総務省消防庁、公益財団法人日本消防協会をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、この大会の更なる発展とご参加いただきました皆様のご健勝ご活躍を心から祈念し、お礼の言葉といたします。ありがとうございました。



お礼の言葉  
珠洲市消防団 洲崎 普美代さん



大会旗引継

石川県消防協会 鍋谷有介会長 → 日本消防協会 秋本敏文会長 → 栃木県消防協会 古山大功会長





次期開催地代表挨拶  
栃木県消防協会 古山 大功会長



閉会宣言  
能美市消防団 濱谷 千晴さん



次期開催地 歓迎メッセージ披露  
第29回全国女性消防団員活性化とちぎ大会  
《とち乙女♡から広げよう！未来を担う地域防災の力》  
令和6年9月19日(木) ライトキューブ宇都宮

## 会場風景



## 情報交流会





# 令和5年7月の豪雨に伴う 久留米市消防団の活動について

福岡県久留米市消防団 団長 古賀 誠一



## 1 はじめに

7月7日(金)から7月10日(月)にかけて、対馬海峡付近に停滞する梅雨前線に暖かく湿った空気の流れ込みが続いた影響で、九州北部地方では前線の活動が活発となり、広い範囲で大雨となりました。

特に10日未明から昼前にかけて線状降水帯が発生し、福岡県や大分県では記録的な大雨となりました。久留米市でも記録的な大雨が降り続き、東部に位置する耳納山では24時間雨量で観測史上最大となる402.5mmの雨を観測するなど、市内各地に甚大な被害をもたらしました。

今回の大雨災害により被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

## 2 久留米市の位置と地勢

久留米市は、福岡県の南西部に位置する人口約30万人の中核都市で、市の北東部から西部にかけて九州一の大河「筑後川」が貫流しています。市では、この筑後川に注ぐ支流の川が溢れる内水氾濫が各地で頻発しており、平成30年以降4年連続で5回の水害に見舞われていました。また、筑後川に沿って南側を耳納山、高良山などの山々が連なっており、山間部では土砂災害警戒区域の指定箇所も数多く存在しています。

## 3 久留米市消防団の概要

久留米市消防団は、平成17年の市町村合併時において、久留米市、田主丸町、北野町、城島町及び三潁町の消防団をそれぞれ引き継いでいましたが、平成22年4月1日に再編統合し、1団1本部7支団43個分団5部にて編成された団員定数1,587名の組織となっています。各分団は、原則小学校校区ごとに、30名の団員及び車両を配置する体制としていますが、校区の面積や人口規模などの地域の実情を考慮し、一部の分団には部を配置しています。

## 4 久留米市消防団の活動

7月10日0時34分に大雨警報が発令されると、団員は災害活動に備えるため格納庫待機を開始しました。市は増水した筑後川の水が支流へ逆流するのを防ぐため、市内20カ所ある水門等の閉鎖を随時行います。久留米市消防団では、水門閉鎖に伴い急速に内水氾濫の危険性が高まるため、地域住民への広報活動をその都度実施しました。また、率先して管内警戒巡視を行い、被害状況を把握するとともに災害対策本部へ危険個所の情報提供を実施しました。さらには、警戒レベル3以上に引き上げられると、避難所開設に伴う避難広報活動を実施しました。

7月10日7時35分、市内全域に警戒レベル5「緊急安全確保」が発令されると、各地で浸水被害

が多発し、付近住民からの土のう積みの依頼が多数寄せられ対応に追われました。このほか浸水常襲地域では、常備消防と連携してのボートによる救助活動や、住民の避難誘導、交通整理等、多岐にわたる活動を実施しました。ボートによる救助では、5つの校区で計8件活動を行い、28名の住民を救助しました。

また、雨が上がった後も、水分を多く含み地盤が緩い危険な状態が続いたことから、土砂災害警戒区域を管轄する分団については、7月25日(火)まで定期的な管内警戒巡視を継続するなど、今回の大雨では、以前と比べても活動が長期にわたるものとなりました。

## ○ 活動人員

延べ1,986名(7月10日～25日)

## ○ 災害活動状況

事案項目	件 数	備 考
救 助 活 動 (ボート救助)	8件	5校区合計 ※28名を救助
救 助 活 動 支 援	1件	1校区
土 の う 積 み	31件	12校区合計
避 難 誘 導	13件	7校区合計
通 行 止 め	8件	5校区合計
交 通 整 理	3件	2校区合計
警備(安全措置)	2件	2校区合計
合 計	66件	



高良内町の被災状況



大橋町の浸水状況



田主丸町(竹野地区)の土石流被害



善導寺町の国道210号線冠水状況



梅満町のボート救助の様子



山本町の道路陥没の状況

## 5 消防団施設等の被害

10日9時15分、耳納山観測所の1時間最大雨量が、観測史上最大の91.5mmを記録しました。山間部の各地で土砂崩れが発生し、特に田主丸町の竹野地区では、広範囲に土石流が流れ込み、20棟以上の家屋が損害を受けました。

また、土石流は第28分団(竹野校区)の格納庫にも直撃し、壁には流木によって大きな穴が開き、中にあったポンプ車は土砂に飲まれ、走行不能となる被害が発生しました。

当時、格納庫内には、待機していた団員も多数おりましたが、轟音に気づき格納庫の裏口から避難したことで、最悪の事態だけは免れました。

このほか、他分団でも格納庫の床上浸水1件、床下浸水1件及びポンプ車の浸水等による被害が2件発生し、消防団の施設等だけでも被害は甚大なものとなりました。





第28分団格納庫の被災状況



土砂が流入した車庫内のポンプ車

## 6 市内の被害状況(令和5年8月29日現在)

人 的 被 害	7名 (死者2名、重傷2名、中等症3名)
住 宅 被 害	2,503棟 (うち床上浸水 947棟)
道 路 被 害	457カ所
河 川 被 害	348カ所
土 砂 被 害	25カ所
農産物及び施設・機械被害	36.2億円 976.5ha

## 7 おわりに

久留米市では、近年頻発する豪雨災害等の度に、常備消防と連携を図りながら、浸水常襲地域での活動計画を作成するなど対策を講じてきましたが、今回の大雨災害では土石流が発生し、死傷者も出るなど大きな爪痕を残しました。

しかし、その中でも団員は、過去の活動で得た経験を活かして臨機応変に対応し、被害を最小限に食い止めるべく懸命に活動を行いました。

近年の災害は、大規模化・激甚化しておりますが、管内住民の生命、身体、財産を守るべく、今後も各種訓練をはじめとする消防団活動に取り組んで参ります。

# 「令和5年梅雨前線及び台風第2号による大雨」 における海南市消防団の活動について

和歌山県海南市消防団 団長 岡室 孝明



## 1 はじめに

令和5年6月1日から3日にかけて、西日本に梅雨前線が停滞し、前線に向かって台風2号周辺の暖かく湿った空気が流れ込んだため大気の状態が非常に不安定になり和歌山県では記録的な大雨となりました。

2日には、和歌山県で線状降水帯が発生し、海南市では、時間最大雨量は69mm、総雨量は390mmを超える地点があり、このため市内の全ての河川で増水し、氾濫危険水位を越え、越水等により氾濫し、床上・床下浸水や道路の冠水など多くの被害が発生しました。

改めて、この度の大雨で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

## 2 海南市の位置と地勢

海南市は和歌山県の北西部に位置し、平成17年4月1日に旧海南市と旧下津町が合併し誕生した市で、人口は約47,000人、面積101.06km<sup>2</sup>の市です。市の北半分は丘陵地で比較的なだらかな地形であるが、南半分は長峰山脈と藤白山脈を控え、山岳に覆われている。緑豊かな自然が豊富で、西は紀伊水道に面し、美しい海を見渡すことができます。

黒潮の影響により四季を通し比較的温暖な気候に恵まれていることから、みかん、びわ、桃の栽培が盛んで、紀伊水道に臨む沿岸部ではシラス・ハモ・ワカメなど海の幸にも恵まれています。

## 3 海南市消防団の概要

海南市消防団は、1団本部・4方面隊・15分団で構成されており、令和5年11月1日現在の実員は671名(条例定数733名)で活動しています。

消防車両はポンプ車8台、小型動力ポンプ付積載車42台、小型ポンプ6台を各分団に配置し、安心の町を目指し団員一丸となり災害に備えています。

令和4年度には、消防職団員合同で洪水・高潮等に備え、有事の際には迅速的確に水防活動が行えるよう、土のうの作成・積土のう工法等の水防工法訓練を実施し水害対応能力の向上に努めています。

## 4 海南市消防団の活動・被害状況

消防団としての活動を開始したのは、6月2日11時10分に土砂災害警戒情報が発令されたことにより、消防本部からの消防団長に対する出動要請を受け、消防団長指揮のもと各分団が水防団として巡回警戒活動を開始しました。

11時から12時の1時間には時間雨量が60mmを超える大雨が降り、床上浸水等の通報が多数入電したため、各分団において積土のう工法を実施し、被害の軽減に努めました。また、浸水した保育施設から避難困難な状態の園児及び保護者等を避難させました。さらに、住居浸水による不安者や高齢者・一人暮らし住民の同居していない家族からの安否確認依頼についての調査活動を行いました。

冠水により道路と側溝の見分けが付かなくなった箇所にて、二次災害防止のための迂回路への車両誘導を行いました。

雨が止んだ6月4日には、浸水したマンション地下駐車場の排水作業を行いました。

### <活動状況>

水防活動	延べ260人
河川被害調査、土のう積み、巡回警戒、道路警戒	242人
避難支援活動	11人
排水作業	7人

### <被害状況>

人的被害	軽傷3人
住家被害	
全壊	1件
床上浸水	457件
床下浸水	960件



ボートでの救出状況



住宅敷地内への土砂流入



加茂川の氾濫



沖野々地区の土砂崩れ



大東地区の浸水状況



内海地区の浸水状況

## 5 おわりに

今回、今までに経験したことのない災害を経験し、地域住民の安否確認は地域に密着している消防団だからこそスムーズに行うことができ、消防団が担う責任と地域防災における重要性を痛感しました。

近い将来発生が予想される南海トラフ地震や今回のような自然災害に備え、地域防災の中核的な役割を担わなくてはなりません。さまざまな災害に対応できるよう日々訓練に励み、団員一丸となって元気・ふれあい・安心のまちを目指していく所存であります。



中野上地区の浸水状況



国道42号線の冠水状況



# 令和5年秋の叙勲・褒章受章者を発表

総務省消防庁

## ◇秋の叙勲(消防関係)

令和5年秋の叙勲(消防関係)受章者は598名で、勲章別内訳は次のとおりです。

瑞宝小綬章	33名
旭日双光章	6名
瑞宝双光章	51名
瑞宝単光章	508名
計	598名

受章者は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与された方々です。

## ◇秋の褒章(消防関係)

令和5年秋の褒章(消防関係)受章者は99名で、褒章別内訳は次のとおりです。

紅綬褒章	3名
黄綬褒章	7名
藍綬褒章	89名
計	99名

受章者のうち、

- ① 紅綬褒章は、災害現場等において、自己の危険を顧みず人命救助に尽力した者
- ② 黄綬褒章は、永年にわたり消防機器の研究開発及び製造販売業務や消防設備保守業務等に精励するとともに、業界の発展に大きく寄与した者
- ③ 藍綬褒章は、消防団員や女性防火クラブ員として永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した者を対象としています。

## 令和5年秋の叙勲受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
瑞 小	北 海 道	元 函館市 消防正監	大 坂 晴 義 (70)	男	瑞 単	北 海 道	元 西胆振行政事務組 合剣霧海消防団 副団長	奥 山 耕 一 (74)	男	瑞 単	北 海 道	元 増毛町消防団 分団長	佐 藤 直 (77)	男
瑞 双	北 海 道	元 小樽市消防団 団長	阿 部 芳 郎 (74)	男	瑞 単	北 海 道	元 北後志消防組合 釧路消防団 分団長	笠 嶋 忠 (83)	男	瑞 単	北 海 道	元 足寄消防団 副団長	佐 藤 則 秋 (67)	男
瑞 双	北 海 道	元 中札内村消防団 団長	上 井 岡 隆 (72)	男	瑞 単	北 海 道	元 北留萌消防組合 苦前町消防団 副団長	加 藤 興 一 (82)	男	瑞 単	北 海 道	元 富良野広域連合 富良野消防団 団長	清 水 一 文 (73)	男
瑞 双	北 海 道	元 函館市函館消防団 団長	坂 口 雄 一 (75)	男	瑞 単	北 海 道	元 網走地区消防組合 東藻琴消防団 副団長	加 藤 孝 行 (68)	男	瑞 単	北 海 道	元 日高中部消防組合 新冠消防団 副分団長	辻 野 照 彦 (70)	男
瑞 単	北 海 道	元 岩内・寿都地方消 防組合黒松内消防 分団長	青 沼 正 男 (85)	男	瑞 単	北 海 道	元 檜山広域行政組 合厚沢町消防団 副団長	川 村 賢 治 (73)	男	瑞 単	北 海 道	元 北後志消防組合 釧路消防団 分団長	須 藤 茂 (84)	男
瑞 単	北 海 道	元 札幌市北消防団 副団長	井 形 信 広 (74)	男	瑞 単	北 海 道	元 利尻礼文消防事務 組合利尻富士町消 防団	神 成 一 夫 (72)	男	瑞 単	北 海 道	元 日高東部消防組合 浦河町消防団 分団長	田 中 正 博 (71)	男
瑞 単	北 海 道	元 檜山広域行政組 合乙部町消防団 副団長	石 山 幸 康 (69)	男	瑞 単	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合磯臼消防団 分団長	木 村 照 雄 (70)	男	瑞 単	北 海 道	元 檜山広域行政組 合せたな町北檜山消 防団	玉 木 久 志 (68)	男
瑞 単	北 海 道	元 札幌市東消防団 団長	岩 田 謙 次 (72)	男	瑞 単	北 海 道	元 大雪消防組合比 布消防団 副団長	久 保 田 伸 二 (65)	男	瑞 単	北 海 道	元 岩見沢地区消防事 務組合月形消防団 団長	中 嶋 雅 義 (64)	男
瑞 単	北 海 道	元 深川地区消防組 合深川消防団 分団長	大 川 広 志 (68)	男	瑞 単	北 海 道	元 江別市消防団 分団長	源 藤 均 (72)	男	瑞 単	北 海 道	元 釧路東部消防組 合釧路消防団 副団長	中 村 朗 (65)	男
瑞 単	北 海 道	元 根室市消防団 副団長	大 塚 照 晴 (70)	男	瑞 単	北 海 道	元 北見地区消防組 合北見消防団 分団長	小 口 明 (85)	男	瑞 単	北 海 道	元 池田町消防団 副団長	新 津 雅 弘 (70)	男
瑞 単	北 海 道	元 大雪消防組合比 布消防団 団長	御 園 正 寛 (70)	男	瑞 単	北 海 道	元 釧路市消防団 副団長	小 西 則 雄 (74)	男	瑞 単	北 海 道	元 白老町消防団 副団長	野 本 輝 (77)	男
瑞 単	北 海 道	元 石狩北部地区消防 事務組合厚田消防 団副分団長	小笠原 進 (81)	男	瑞 単	北 海 道	元 羊蹄山ろく消防組 合根知安消防団 副団長	小 松 孝 好 (73)	男	瑞 単	北 海 道	元 遠軽地区広域組 合湧別町消防団 副団長	長谷川 晴 夫 (74)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
瑞 単	北 海 道	元 岩見沢地区消防事 務組合栗沢消防団 副団長	早 川 建 一 (78)	男	瑞 小	青 森 県	元 青森地域広域消防 事務組合 消防正監	名 古 屋 明 広 (70)	男	瑞 単	青 森 県	元 八戸市八戸消防団 分団長	玉 川 廣 志 (74)	男
瑞 単	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合別海消防団 副団長	福 原 俊 治 (71)	男	瑞 双	青 森 県	元 五つ市消防団 団長	菊 池 郁 夫 (71)	男	瑞 単	青 森 県	元 五所川原市消防団 分団長	千 田 光 則 (74)	男
瑞 単	北 海 道	元 南十勝消防事務組 合更別消防団 分団長	藤 澤 紀 雄 (83)	男	瑞 双	青 森 県	元 横浜町消防団 団長	菊 池 清 助 (69)	男	瑞 単	青 森 県	元 七戸町消防団 分団長	島 谷 部 忠 志 (72)	男
瑞 単	北 海 道	元 南渡島消防事務組 合北斗消防団 副団長	藤 本 一 幸 (75)	男	瑞 単	青 森 県	元 十和田市消防団 分団長	藤 畑 武 志 (76)	男	瑞 単	青 森 県	元 今別町消防団 副団長	中 島 了 (71)	男
瑞 単	北 海 道	元 利尻礼文消防事務 組合利尻町消防団 副団長	星 田 敏 彦 (68)	男	瑞 単	青 森 県	元 深浦町消防団 分団長	蝦 名 莊 一 (74)	男	瑞 単	青 森 県	元 青森市青森消防団 副団長	原 子 隆 (72)	男
瑞 単	北 海 道	元 室蘭市消防団 分団長	松 谷 國 雄 (72)	男	瑞 単	青 森 県	元 三沢市消防団 分団長	大 野 哲 博 (73)	男	瑞 単	青 森 県	元 佐井村消防団 分団長	宮 木 幸 雄 (72)	男
瑞 単	北 海 道	元 滝川地区広域消防 事務組合滝川消防 団	丸 岡 秀 彦 (70)	男	瑞 単	青 森 県	元 田子町消防団 副団長	木 根 榮 (70)	男	瑞 単	青 森 県	元 黒石市消防団 団長	山 口 利 文 (69)	男
瑞 単	北 海 道	元 富良野広域連合 富良野消防団 団長	水 間 敏 文 (68)	男	瑞 単	青 森 県	元 八戸市消防団 分団長	木 村 清 美 (74)	男	瑞 単	青 森 県	元 青森市青森消防団 副団長	山 下 修 司 (73)	男
瑞 単	北 海 道	元 苫小牧市消防団 副団長	三田村 宏 之 (71)	男	瑞 単	青 森 県	元 六ヶ所市消防団 分団長	久 保 勝 志 (74)	男	瑞 単	青 森 県	元 大間町消防団 副団長	和 田 健 一 (70)	男
瑞 単	北 海 道	元 南宗谷消防組合 岨別消防団 副分団長	柳 沼 芳 弘 (77)	男	瑞 単	青 森 県	元 黒石市消防団 分団長	齋 藤 寧 (71)	男	瑞 双	岩 手 県	元 岩泉町消防団 副団長	田 淵 政 夫 (73)	男
瑞 単	北 海 道	元 渡島西部広域事務 組合知内消防団 分団長	山 本 政 勝 (83)	男	瑞 単	青 森 県	元 南部町消防団 分団長	叔 上 二 三 男 (70)	男	瑞 単	岩 手 県	元 岩泉町消防団 分団長	漆 畑 竹 男 (71)	男
瑞 単	北 海 道	元 砂川地区広域消防 組合浦臼消防団 団長	渡 邊 一 彦 (70)	男	瑞 単	青 森 県	元 八戸市消防団 副団長	榮 田 正 勝 (71)	男	瑞 単	岩 手 県	元 盛岡市消防団 分団長	柏 田 政 昭 (76)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	岩 手 県	元 北上市消防団 団長	菅 孝 志 (76)	男	瑞 単	岩 手 県	元 花巻市消防団 分団長	高 健 次郎 (74)	男	瑞 単	宮 城 県	元 栗原市消防団 分団長	上 藤 昌 利 (82)	男
瑞 単	岩 手 県	元 奥州市江刺区消防団 副団長	菊 池 吉 助 (77)	男	瑞 単	岩 手 県	元 野田村消防団 副団長	南 川 豊 (73)	男	瑞 単	宮 城 県	元 大崎市消防団 副団長	桑 添 正 昭 (72)	男
瑞 単	岩 手 県	元 一関市消防団 分団長	熊 澤 照 夫 (77)	男	瑞 単	岩 手 県	元 奥州市消防団 副団長	三 宅 正 克 (74)	男	瑞 単	宮 城 県	元 大崎市消防団 副団長	小 林 勝 晃 (71)	男
瑞 単	岩 手 県	元 北上市消防団 副団長	齊 藤 律 雄 (77)	男	瑞 単	岩 手 県	元 洋野町消防団 分団長	森 澤 光 雄 (72)	男	瑞 単	宮 城 県	元 仙台市宮城野消防団 副団長	今 野 榮 悦 (70)	男
瑞 単	岩 手 県	元 岩手町消防団 分団長	佐々木 伊三郎 (77)	男	瑞 小	宮 城 県	元 仙南地域広域行政事務組合 消防正監	大 松 敏 二 (70)	男	瑞 単	宮 城 県	元 多賀城市消防団 分団長	今 野 正 晃 (71)	男
瑞 単	岩 手 県	元 一関市消防団 分団長	下川原 真 (74)	男	瑞 小	宮 城 県	元 仙台市 消防正監	田 辺 茂 (70)	男	瑞 単	宮 城 県	元 女川町消防団 副団長	佐 藤 元 一 (72)	男
瑞 単	岩 手 県	元 西和賀町消防団 分団長	高 橋 滝 男 (73)	男	瑞 双	宮 城 県	元 塩竈市塩竈消防団 団長	小 野 嘉 克 (70)	男	瑞 単	宮 城 県	元 仙台市秋保消防団 副団長	佐 藤 敏 志 (76)	男
瑞 単	岩 手 県	元 盛岡市消防団 分団長	船 澤 実 (73)	男	瑞 単	宮 城 県	元 多賀城市消防団 分団長	石 森 勉 (71)	男	瑞 単	宮 城 県	元 丸森町消防団 分団長	佐 山 薫 (72)	男
瑞 単	岩 手 県	元 洋野町消防団 分団長	中 里 光 男 (76)	男	瑞 単	宮 城 県	元 大崎市消防団 副団長	伊 藤 慶 幸 (72)	男	瑞 単	宮 城 県	元 栗原市消防団 分団長	白 鳥 功 一 (74)	男
瑞 単	岩 手 県	元 一関市消防団 分団長	那 須 義 二 (75)	男	瑞 単	宮 城 県	元 登米市消防団 副団長	及 川 滋 保 (70)	男	瑞 単	宮 城 県	元 大衡村消防団 分団長	鈴 木 俊 一 (74)	男
瑞 単	岩 手 県	元 盛岡市消防団 副団長	嶋 海 秀 雄 (73)	男	瑞 単	宮 城 県	元 杜鹿町消防団 分団長	奥 田 和 慶 (76)	男	瑞 単	宮 城 県	元 南三陸町志津川消防団 副団長	高 橋 忠 雄 (70)	男
瑞 単	岩 手 県	元 山田町消防団 分団長	榎 森 泉 (75)	男	瑞 単	宮 城 県	元 仙台市宮城野消防団 副団長	菅 野 哲 男 (76)	男	瑞 単	宮 城 県	元 登米市消防団 副団長	高 橋 知 巳 (70)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	宮 城 県	元 登米市消防団 副団長	武 内 和 義 (70)	男	瑞 単	秋 田 県	元 三種町消防団 分団長	伊 東 正 夫 (77)	男	瑞 単	秋 田 県	元 羽後町消防団 分団長	畑 山 靖 之 (76)	男
瑞 単	宮 城 県	元 鶯沢町消防団 分団長	千 葉 貞 男 (79)	男	瑞 単	秋 田 県	元 由利本荘市消防団 分団長	上 藤 喜美夫 (74)	男	瑞 単	秋 田 県	元 田沢湖町消防団 分団長	羽根川 専 治 (84)	男
瑞 単	宮 城 県	元 如美町消防団 分団長	中 沢 清 夫 (76)	男	瑞 単	秋 田 県	元 井川町消防団 分団長	小 林 浩 次 (77)	男	瑞 単	秋 田 県	元 湯沢市消防団 分団長	藤 岡 俊 一 (71)	男
瑞 単	宮 城 県	元 川崎町消防団 分団長	水 澤 範 郎 (77)	男	瑞 単	秋 田 県	元 横手市大雄消防団 副団長	小 松 高 義 (68)	男	瑞 単	秋 田 県	元 井川町消防団 分団長	升 屋 重 蔵 (72)	男
瑞 単	宮 城 県	元 蔵王町消防団 副団長	沼 澤 久 夫 (70)	男	瑞 単	秋 田 県	元 能代市消防団 分団長	斉 藤 正 美 (71)	男	瑞 単	秋 田 県	元 横手市消防団 副団長	松 井 大 作 (71)	男
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市宮城消防団 副団長	針 生 武 志 (70)	男	瑞 単	秋 田 県	元 上小阿仁村消防団 副分団長	齊 藤 賢 (72)	男	瑞 単	秋 田 県	元 美郷町消防団 分団長	最 上 宗 一 (75)	男
瑞 単	宮 城 県	元 気仙沼市消防団 分団長	平 田 節 郎 (75)	男	瑞 単	秋 田 県	元 西木村消防団 副分団長	佐々木 茂 義 (81)	男	瑞 単	秋 田 県	元 小坂町消防団 分団長	和 田 隆 悦 (76)	男
瑞 単	宮 城 県	元 柴田町消防団 分団長	舟 山 喜 助 (72)	男	瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 分団長	須 磨 良 郎 (74)	男	瑞 単	秋 田 県	元 大館市消防団 分団長	渡 邊 照 雄 (74)	男
瑞 単	宮 城 県	元 名取市消防団 分団長	渡 邊 正 (77)	男	瑞 単	秋 田 県	元 皆瀬村消防団 分団長	高 橋 多 一 (74)	男	瑞 単	秋 田 県	元 大仙市消防団 副団長	渡 邊 敏 雄 (74)	男
瑞 小	秋 田 県	元 大曲仙北広域市町村圏組合 消防正監	菅 原 達 美 (70)	男	瑞 単	秋 田 県	元 由利本荘市消防団 分団長	高 橋 正知世 (74)	男	瑞 単	秋 田 県	元 大仙市消防団 副団長	渡 邊 亨 (71)	男
瑞 双	秋 田 県	元 由利本荘市消防団 団長	岡 防 彦 宗 (70)	男	瑞 単	秋 田 県	元 仙北市消防団 分団長	田 口 志 良 (71)	男	瑞 小	山 形 県	元 置賜広域行政事務組合 消防正監	村 山 雅 晴 (70)	男
瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 分団長	池 田 秀 勝 (74)	男	瑞 単	秋 田 県	元 羽後町消防団 団長	武 田 義 夫 (68)	男	瑞 双	山 形 県	元 遊佐町消防団 団長	高 橋 正 義 (73)	男



賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	山 形 県	元 戸沢村消防団 副団長	阿 部 忠 一 (65)	男
瑞 単	山 形 県	元 米沢市消防団 団長	嵐 田 久 (71)	男
瑞 単	山 形 県	元 酒田市消防団 分団長	齋 藤 敏 喜 (68)	男
瑞 単	山 形 県	元 小国町消防団 団長	佐 藤 義 昭 (70)	男
瑞 単	山 形 県	元 村山市消防団 団長	鈴 木 慶 美 (66)	男
瑞 単	山 形 県	元 南陽市消防団 団長	高 橋 義 昭 (67)	男
瑞 単	山 形 県	元 酒田市消防団 分団長	田中井 広 志 (65)	男
瑞 単	山 形 県	元 天童市消防団 団長	新 関 謙 司 (65)	男
瑞 双	福 島 県	元 中島村消防団 団長	小 室 正 光 (70)	男
瑞 単	福 島 県	元 猪苗代町消防団 団長	五十嵐 幸 夫 (60)	男
瑞 単	福 島 県	元 南会津町消防団 分団長	大 山 道 明 (70)	男
瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	小 川 邦 夫 (78)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 副団長	片 野 博 (72)	男
瑞 単	福 島 県	元 喜多方市消防団 副団長	齋 藤 誠 (71)	男
瑞 単	福 島 県	元 桑折町消防団 分団長	齋 野 英 利 (72)	男
瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 副団長	佐 藤 正 雄 (75)	男
瑞 単	福 島 県	元 富岡町消防団 分団長	二 瓶 修 (66)	男
瑞 単	福 島 県	元 田村市消防団 副団長	白 岩 幸 広 (67)	男
瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 副団長	丹 野 博 (75)	男
瑞 単	福 島 県	元 二本松市消防団 副団長	生田目 和 信 (68)	男
瑞 単	福 島 県	元 下郷町消防団 部長	芳 賀 正 司 (67)	男
瑞 単	福 島 県	元 南相馬市消防団 副団長	伏 見 順 栄 (70)	男
瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	宗 形 義 久 (67)	男
瑞 小	茨 城 県	元 稲敷地方広域市町村圏事務組合 消防正監	本 谷 正 一 (70)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 双	茨 城 県	元 稲敷市消防団 団長	村 塚 好 一 (71)	男
瑞 単	茨 城 県	元 高萩市消防団 分団長	浅 川 徳 男 (86)	男
瑞 単	茨 城 県	元 大子町消防団 分団長	大 森 昌 作 (87)	男
瑞 単	茨 城 県	元 北茨城市消防団 分団長	大 森 紀 行 (83)	男
瑞 単	茨 城 県	元 日立市消防団 副団長	河 井 照 夫 (73)	男
瑞 単	茨 城 県	元 水戸市消防団 分団長	川野達 弘 純 (71)	男
瑞 単	茨 城 県	元 常総市消防団 副団長	倉 持 政 男 (74)	男
瑞 単	茨 城 県	元 筑西市消防団 副団長	齋 藤 和 男 (69)	男
瑞 単	茨 城 県	元 常総市水海道消防団 副団長	寺 田 敏 夫 (73)	男
瑞 単	茨 城 県	元 水戸市消防団 副分団長	原 輝 雄 (75)	男
瑞 単	茨 城 県	元 小美玉市消防団 副団長	山 口 政 美 (70)	男
瑞 単	栃 木 県	元 日光市藤原消防団 分団長	諏 訪 伸 一 (73)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	栃 木 県	元 田沼町消防団 副団長	田 村 僚 二 (72)	男
瑞 単	栃 木 県	元 下野市消防団 副団長	保 坂 和 幸 (72)	男
瑞 単	栃 木 県	元 那須塩原市西那須野消防団 副団長	星 三 男 (72)	男
瑞 単	栃 木 県	元 栃木市消防団 分団長	山 田 金 司 (73)	男
瑞 単	栃 木 県	元 真岡市消防団 団長	渡 邊 繁 (72)	男
瑞 双	群 馬 県	元 伊勢崎市 消防正監	毒 島 吉 一 (70)	男
瑞 単	群 馬 県	元 上野村消防団 分団長	今 井 悦 夫 (72)	男
瑞 単	群 馬 県	元 大泉町消防団 分団長	小 島 岩 雄 (69)	男
瑞 単	群 馬 県	元 利根村消防団 分団長	小 林 清 作 (72)	男
瑞 単	群 馬 県	元 下仁田町消防団 団長	林 孝 (64)	男
瑞 単	群 馬 県	元 安中市消防団 分団長	堀 越 政 良 (69)	男
瑞 単	群 馬 県	元 前橋市消防団 分団長	柳 川 義 一 (74)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 小	埼 玉 県	元 埼玉県中央広域事務組合 消防正監	秋 山 岩 夫 (70)	男
瑞 小	埼 玉 県	元 春日部市 消防正監	寛 田 一 夫 (70)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 比企広域市町村圏組合小川消防団 団長	石 川 雅 昭 (65)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 さいたま市消防団 分団長	岩 波 勝 幸 (82)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 川口市消防団 分団長	加 藤 恵 一 (72)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 蕨市消防団 分団長	小森谷 勉 (70)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 戸田市消防団 団長	酒 井 久 之 (70)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 越谷市消防団 分団長	関 根 勝 男 (75)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 熊谷市消防団 分団長	高 野 孝 行 (73)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 行田市消防団 副分団長	田 口 博 昭 (72)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 志木市消防団 副団長	抜 井 和 彦 (71)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 草加市消防団 副分団長	平 澤 三 朗 (73)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	埼 玉 県	元 春日部市春日部消防団 副分団長	細 井 正 夫 (72)	男
瑞 単	埼 玉 県	元 上尾市消防団 団長	矢 島 健 次 (64)	男
瑞 小	千 葉 県	元 市原市 消防正監	勝 地 巳三男 (70)	男
瑞 双	千 葉 県	元 流山市消防団 団長	小 倉 邦 裕 (70)	男
瑞 単	千 葉 県	元 山武市消防団 分団長	昨 森 昌 良 (64)	男
瑞 単	千 葉 県	元 市原市消防団 副団長	桐 谷 喜 心 (64)	男
瑞 単	千 葉 県	元 八街市消防団 団長	斉 藤 弘 一 (64)	男
瑞 単	千 葉 県	元 袖ヶ浦市消防団 団長	佐久間 貢 (64)	男
瑞 単	千 葉 県	元 野田市消防団 副団長	芝 田 均 (68)	男
瑞 単	千 葉 県	元 長生郡市広域市町村圏組合消防団 副団長	時 田 哲 男 (64)	男
瑞 単	千 葉 県	元 船橋市消防団 副団長	土 橋 敬 治 (64)	男
瑞 単	千 葉 県	元 西街道市消防団 副団長	吉 橋 史 雄 (64)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	石 井 義 明 (70)	男
瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	海 藤 芳 和 (70)	男
瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	齊 藤 英 一 (70)	男
瑞 双	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	船 村 重 (70)	男
瑞 双	東 京 都	元 世田谷消防団 団長	岩 田 一 彦 (71)	男
瑞 双	東 京 都	元 深川消防団 団長	平 山 敏 夫 (73)	男
瑞 双	東 京 都	元 小岩消防団 団長	村 瀬 光 一 (70)	男
瑞 双	東 京 都	元 田園調布消防団 団長	八 巻 忠 重 (79)	男
瑞 双	東 京 都	元 江戸川消防団 団長	渡 邊 久 雄 (71)	男
瑞 単	東 京 都	元 本所消防団 分団長	上 田 政 美 (71)	男
瑞 単	東 京 都	元 日本橋消防団 分団長	浦 野 常 徳 (73)	男
瑞 単	東 京 都	元 石神井消防団 分団長	榎 本 高 一 (74)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	東 京 都	元 奥多摩町消防団 団長	長 田 一 雄 (62)	男
瑞 単	東 京 都	元 光が丘消防団 副団長	小 澤 清 治 (71)	男
瑞 単	東 京 都	元 赤羽消防団 副団長	小 澤 浩 子 (76)	女
瑞 単	東 京 都	元 目黒消防団 副団長	菊 池 敏 紀 (73)	男
瑞 単	東 京 都	元 池袋消防団 副団長	小 澤 久 義 (74)	男
瑞 単	東 京 都	元 王子消防団 副団長	小 林 一 男 (76)	男
瑞 単	東 京 都	元 渋谷消防団 副団長	小 林 一 進 (72)	男
瑞 単	東 京 都	元 西新井消防団 団長	篠 原 弘 治 (77)	男
瑞 単	東 京 都	元 志村消防団 副団長	芝 野 健 一 (71)	男
瑞 単	東 京 都	元 金町消防団 分団長	鈴 木 雅 人 (87)	男
瑞 単	東 京 都	元 多摩市消防団 団長	高 野 陽 一 (60)	男
瑞 単	東 京 都	元 四谷消防団 副団長	奈 良 恵 治 (74)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	東 京 都	元 杉並消防団 団長	福 田 浩 一 (71)	男
瑞 単	東 京 都	元 玉川消防団 分団長	松 本 順 一 (72)	男
瑞 単	東 京 都	元 麩町消防団 副団長	宮 下 英 一 (73)	男
瑞 単	東 京 都	元 千住消防団 副団長	矢 島 隆 史 (73)	男
瑞 単	東 京 都	元 荒川消防団 副団長	矢 内 康 雄 (72)	男
瑞 単	東 京 都	元 練馬消防団 副団長	山 本 肇 (71)	男
瑞 単	東 京 都	元 荻窪消防団 分団長	和 田 基 忠 (75)	男
瑞 双	神 奈 川 県	元 横須賀市 消防正監	牛 尾 修 一 (70)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市金沢消防団 副分団長	青 木 明 (86)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 真鶴町消防団 団長	青 木 繁 (73)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 平塚市消防団 分団長	青 木 秀 明 (72)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 南足柄市消防団 団長	石 澤 明 彦 (62)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市鶴見消防団 副分団長	梅 野 正 樹 (85)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市中原消防団 副団長	遠 藤 芳 廣 (72)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市磯子消防団 分団長	岡 本 一 (85)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 相模原市相模湖消防団 団長	小 川 喜 平 (69)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市戸塚消防団 分団長	三枝 木 育 雄 (83)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 山北町消防団 団長	佐 野 益 久 (66)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市長消防団 副団長	露 木 政 幸 (74)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 相模原市津久井消防団 団長	菱 山 喜 章 (67)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 逗子市消防団 分団長	増 田 勝 頼 (78)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市青葉消防団 分団長	松 澤 光 剛 (79)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 箱根町消防団 団長	三 浦 実 (69)	男
瑞 単	神 奈 川 県	元 秦野市消防団 副団長	森 谷 保 夫 (63)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	神 奈 川 県	元 横須賀市消防団 分団長	米 山 豊 平 (70)	男
瑞 小	新 潟 県	元 上越地域消防事務 組合 消防正監	小 池 義 徳 (71)	男
瑞 双	新 潟 県	元 加茂市消防団 団長	近 藤 和 三 (77)	男
瑞 単	新 潟 県	元 安塚町消防団 団長	青 田 友 春 (73)	男
瑞 単	新 潟 県	元 佐渡市消防団 副団長	石 川 正 志 (72)	男
瑞 単	新 潟 県	元 田上町消防団 団長	石 澤 昇 (72)	男
瑞 単	新 潟 県	元 見附市消防団 団長	板 垣 守 (65)	男
瑞 単	新 潟 県	元 新発田市消防団 副分団長	伊 藤 昭 (77)	男
瑞 単	新 潟 県	元 五泉市消防団 副団長	岡 田 隆 平 (72)	男
瑞 単	新 潟 県	元 新潟市消防団 副団長	沖 村 一 雄 (75)	男
瑞 単	新 潟 県	元 松之山町消防団 分団長	小野塚 伊 一 (83)	男
瑞 単	新 潟 県	元 新潟市消防団 副団長	加 藤 文 敏 (73)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	新 潟 県	元 南魚沼市消防団 団長	上 村 賢 司 (68)	男
瑞 単	新 潟 県	元 長岡市消防団 副団長	駒木 根 伸 二 (66)	男
瑞 単	新 潟 県	元 糸魚川市消防団 分団長	戸 沢 和 重 (71)	男
瑞 単	新 潟 県	元 上越市消防団 副団長	中 里 雅 之 (67)	男
瑞 単	新 潟 県	元 村上市消防団 分団長	西 盛 克 彦 (78)	男
瑞 単	新 潟 県	元 津川町消防団 副分団長	長谷川 一 進 (79)	男
瑞 小	富 山 県	元 高岡市 消防正監	横 田 隆 之 (70)	男
瑞 単	富 山 県	元 富山市消防団 副団長	打 尾 一 進 (74)	男
瑞 単	富 山 県	元 黒部市消防団 分団長	越 前 良 一 (73)	男
瑞 単	富 山 県	元 富山市消防団 副団長	大 道 勝 則 (69)	男
瑞 単	富 山 県	元 高岡市消防団 副団長	岡 田 康 晴 (70)	男
瑞 単	富 山 県	元 射水市消防団 分団長	加 藤 繁 (77)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	富 山 県	元 富山市消防団 副団長	桐 谷 泰 山 (74)	男
瑞 単	富 山 県	元 砺波市消防団 分団長	原 田 清 (75)	男
瑞 単	富 山 県	元 魚津市消防団 分団長	肥 塚 宗 昭 (70)	男
瑞 単	富 山 県	元 滑川市消防団 団長	平 井 義 隆 (65)	男
瑞 単	富 山 県	元 高岡市消防団 分団長	福 島 三千雄 (75)	男
瑞 単	富 山 県	元 水見市消防団 副団長	矢 地 謙 三 (68)	男
瑞 単	富 山 県	元 朝日町消防団 副分団長	米 谷 嘉 夫 (82)	男
瑞 単	石 川 県	元 輪島市消防団 分団長	上 田 一 二 (76)	男
瑞 単	石 川 県	元 中能登町消防団 団長	打 越 孝 藏 (75)	男
瑞 単	石 川 県	元 金沢市第三消防団 団長	加 藤 吉 和 (70)	男
瑞 単	石 川 県	元 川北町消防団 団長	進 藤 一 孜 (76)	男
瑞 単	石 川 県	元 穴水町消防団 副団長	田 畑 龍 雄 (71)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	石 川 県	元 加賀市消防団 分団長	松 山 昭 治 (72)	男
瑞 単	山 梨 県	元 身延町消防団 団長	赤 池 孝 教 (64)	男
瑞 単	山 梨 県	元 道志村消防団 団長	出 羽 達 彦 (65)	男
瑞 小	長 野 県	元 長野市 消防正監	岩 倉 宏 明 (70)	男
瑞 小	長 野 県	元 松本広域連合 消防正監	横 井 貞 文 (70)	男
瑞 小	長 野 県	元 南信州広域連合 消防正監	山 田 耕 三 (70)	男
瑞 双	長 野 県	元 軽井沢町消防団 団長	土 屋 勝 浩 (62)	男
瑞 単	長 野 県	元 中野市消防団 団長	神 田 雄 樹 (60)	男
瑞 単	長 野 県	元 長野市消防団 分団長	北 澤 勇 一 (64)	男
瑞 単	長 野 県	元 南木曽町消防団 団長	志 水 保 仁 (60)	男
瑞 双	岐 阜 県	元 岐阜市北消防団 団長	野々村 潔 (70)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 岐阜市南消防団 副団長	岩 田 信 男 (71)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	岐 阜 県	元 羽島市消防団 団長	大野木 真 (70)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 高山市消防団 分団長	大 前 照 和 (83)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 飛騨市消防団 副団長	北 村 逸 朗 (71)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 飛騨市消防団 副団長	阪 下 真 (64)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 高山市消防団 副団長	立 道 忠 則 (69)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 中津川市消防団 副団長	平 井 一 吉 (64)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 瑞浪市消防団 副団長	山 田 桂 三 (65)	男
瑞 単	岐 阜 県	元 養老町消防団 分団長	横 山 富 雄 (73)	男
瑞 小	静 岡 県	元 沼津市 消防正監	大 嶽 一 男 (70)	男
瑞 小	静 岡 県	元 富士市 消防正監	中 川 勇 男 (70)	男
瑞 双	静 岡 県	元 静岡市 消防司監	平 岡 郁 雄 (70)	男
瑞 単	静 岡 県	元 御殿場市消防団 団長	大胡田 明 寿 (63)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	静 岡 県	元 静岡市消防団 副団長	草 谷 卓 司 (72)	男
瑞 単	静 岡 県	元 沼津市消防団 分団長	佐 藤 正 洋 (66)	男
瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 分団長	西 村 力 (69)	男
瑞 単	静 岡 県	元 静岡市消防団 副団長	花 村 直 仁 (67)	男
瑞 単	静 岡 県	元 三島市消防団 分団長	松 本 盛 一 (64)	男
瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 分団長	米 山 聡 (68)	男
瑞 小	愛 知 県	元 岡崎市 消防正監	太 田 茂 (70)	男
瑞 小	愛 知 県	元 名古屋 消防司監	野 田 和 義 (70)	男
瑞 双	愛 知 県	元 一宮市 消防正監	伊 藤 健 (70)	男
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市高見消防団 団長	浅 野 隆 弘 (85)	男
瑞 単	愛 知 県	元 一宮市消防団 副分団長	伊 藤 菊 雄 (77)	男
瑞 単	愛 知 県	元 一宮市消防団 分団長	加 藤 輝 彦 (63)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市志段味東消防団 団長	加 藤 久 巳 (67)	男
瑞 単	愛 知 県	元 一宮市消防団 副分団長	杉 山 昭 (73)	男
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市千島消防団 団長	竹 内 猛 (81)	男
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市金城消防団 団長	西 田 吉 伸 (77)	男
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市野田消防団 団長	丹 羽 正 美 (77)	男
瑞 双	三 重 県	元 度会町消防団 団長	小 野 榮 士 (81)	男
瑞 単	三 重 県	元 四日市市楠消防団 副分団長	加 田 聖 二 (72)	男
瑞 単	三 重 県	元 桑名市消防団 分団長	加 藤 忠 司 (66)	男
瑞 単	三 重 県	元 大台町消防団 副団長	筒 井 弘 佳 (70)	男
瑞 単	三 重 県	元 熊野市消防団 分団長	前 川 純 一 (73)	男
瑞 単	三 重 県	元 津市消防団 副団長	森 田 政 彦 (64)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	三 重 県	元 紀宝町消防団 副団長	山 根 忠 男 (78)	男
瑞 双	滋 賀 県	元 甲賀市消防団 団長	北 尾 憲 一 (67)	男
瑞 単	滋 賀 県	元 大津市消防団 分団長	小 山 弘 司 (87)	男
瑞 単	滋 賀 県	元 日野町消防団 団長	谷 口 登 (66)	男
瑞 単	滋 賀 県	元 長浜市消防団 副団長	角 川 茂 孝 (63)	男
瑞 単	滋 賀 県	元 竜王町消防団 団長	菱 田 勇 雄 (67)	男
瑞 小	京 都 府	元 京都市 消防正監	佐 野 弘 (70)	男
瑞 小	京 都 府	元 宇治市 消防正監	関 比呂志 (70)	男
瑞 双	京 都 府	元 京都市 消防正監	増 田 優 人 (70)	男
瑞 単	京 都 府	元 京都市中京消防団 分団長	市 川 博 敏 (75)	男
瑞 単	京 都 府	元 京都市右京消防団 分団長	瓜 生 大三郎 (75)	男
瑞 単	京 都 府	元 舞鶴市中筋消防団 団長	大 滝 敏 明 (75)	男



賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	京 都 府	元 京都市北消防団 副団長	江 辻 和 男 (70)	男	瑞 双	兵 庫 県	元 加古川市消防団 分団長	奥 田 廣 隆 (70)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 川西市消防団 副分団長	寺 内 好 雄 (69)	男
瑞 単	京 都 府	元 京都市下京消防団 副団長	安 田 一 夫 (78)	男	瑞 双	兵 庫 県	元 姫路市網干消防団 団長	西 森 清 孝 (71)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 高砂市消防団 副分団長	瀧 元 昭 (64)	男
瑞 小	大 阪 府	元 守口市門真市消防 組合 消防正監	深 澤 雄 二 (70)	男	瑞 双	兵 庫 県	元 上郡町消防団 団長	松 本 隆 雄 (74)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 宝塚市消防団 分団長	福 本 真 一 (66)	男
瑞 双	大 阪 府	元 池田市消防団 団長	井 関 義 次 (67)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 洲本市消防団 分団長	桶 裏 保 義 (65)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 たつの市消防団 副団長	前 田 章 吾 (64)	男
瑞 双	大 阪 府	元 阪南市消防団 副団長	岸 本 義 光 (71)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 豊岡市竹野消防団 副団長	井 原 和 西 郎 (71)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 川西市消防団 副分団長	山 添 武 吉 (65)	男
瑞 双	大 阪 府	元 茨木市消防団 団長	澤 田 勉 (74)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	小 川 洋 (76)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 神戸市灘消防団 副団長	湯 浅 治 行 (73)	男
瑞 単	大 阪 府	元 吹田市消防団 団長	岡 本 一 弘 (76)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 高砂市消防団 副分団長	鎌 田 弘 和 (64)	男	瑞 小	奈 良 県	元 奈良県広域消防組 合 消防司監	山 本 洋 (70)	男
瑞 単	大 阪 府	元 枚方市消防団 副団長	柏 村 和 彦 (71)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	木 嶋 三 春 (74)	男	瑞 単	奈 良 県	元 三郷町消防団 分団長	尾 崎 勝 彦 (82)	男
瑞 単	大 阪 府	元 河内長野市消防団 副団長	田 中 豊 彦 (69)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 尼崎市消防団 分団長	小 山 申 次 (78)	男	瑞 単	奈 良 県	元 斑鳩町消防団 団長	紀 勝 司 (76)	男
瑞 単	大 阪 府	元 高槻市消防団 副団長	羽 田 俊 夫 (73)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 三田市消防団 団長	芝 秀 世 (72)	男	瑞 単	奈 良 県	元 広陵町消防団 副団長	北 村 介 則 (70)	男
瑞 単	大 阪 府	元 松原市消防団 分団長	吉 川 正 行 (74)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 神戸市兵庫消防団 副団長	島 本 廣 伸 (79)	男	瑞 単	奈 良 県	元 安堵町消防団 分団長	近 藤 博 雄 (76)	男
瑞 小	兵 庫 県	元 宝塚市 消防正監	山 田 茂 樹 (70)	男	瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市飾磨消防団 団長	田 中 勉 (71)	男	瑞 単	奈 良 県	元 山辺広域行政事務 組合天理消防団 副分団長	面 田 富士夫 (85)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	奈 良 県	元 下市町消防団 副団長	橋 岡 弘 隆 (70)	男	瑞 単	鳥 取 県	元 八頭町消防団 団長	佐々木 憲 治 (71)	男	瑞 単	岡 山 県	元 津山市消防団 分団長	安 藤 一 信 (65)	男
瑞 単	奈 良 県	元 奈良市消防団 副団長	森 村 正 力 (75)	男	瑞 単	鳥 取 県	元 倉吉市消防団 分団長	米 田 勝 美 (76)	男	瑞 単	岡 山 県	元 高梁市消防団 分団長	井 上 久 志 (65)	男
瑞 双	和 歌 山 県	元 橋本市消防団 団長	勝 敏 夫 (76)	男	瑞 単	鳥 取 県	元 三朝町消防団 団長	米 原 諒 一 (65)	男	瑞 単	岡 山 県	元 高梁市消防団 分団長	植 木 肇 (67)	男
瑞 単	和 歌 山 県	元 白浜町消防団 分団長	策 彰 男 (71)	男	瑞 小	島 根 県	元 出雲市 消防正監	板 垣 祐 治 (70)	男	瑞 単	岡 山 県	元 奈義町消防団 団長	植 月 克 明 (64)	男
瑞 単	和 歌 山 県	元 野上町消防団 分団長	西 浦 佳 典 (69)	男	瑞 単	島 根 県	元 奥出雲町消防団 分団長	加 藤 弘 志 (64)	男	瑞 単	岡 山 県	元 玉野市消防団 分団長	大 塚 秀 和 (72)	男
瑞 単	和 歌 山 県	元 橋本市消防団 副団長	平 田 宗一郎 (79)	男	瑞 単	島 根 県	元 松江市消防団 副団長	神 庭 昭 一 (66)	男	瑞 単	岡 山 県	元 玉野市消防団 分団長	小 橋 一 郎 (72)	男
瑞 単	和 歌 山 県	元 九度山町消防団 副分団長	南 健 (75)	男	瑞 単	島 根 県	元 益田市消防団 分団長	齋 藤 久 人 (77)	男	瑞 単	岡 山 県	元 倉敷市消防団 分団長	近 藤 信 宜 (67)	男
瑞 単	和 歌 山 県	元 新宮市消防団 分団長	山 口 芳 生 (69)	男	瑞 単	島 根 県	元 浜田市消防団 副団長	田 中 稔 夫 (68)	男	瑞 単	岡 山 県	元 津山市消防団 分団長	田 外 芳 久 (65)	男
瑞 単	和 歌 山 県	元 田辺市消防団 副団長	山 根 英 祐 (65)	男	瑞 単	島 根 県	元 松江市消防団 分団長	野 津 良 文 (74)	男	瑞 単	岡 山 県	元 真庭市消防団 副団長	長 尾 啓 二 (64)	男
瑞 双	鳥 取 県	元 淀江町消防団 団長	宮 本 幹 夫 (86)	男	瑞 単	島 根 県	元 大田市消防団 分団長	松 本 清 (76)	男	瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	西 谷 康 正 (69)	男
瑞 単	鳥 取 県	元 倉吉市消防団 副団長	大 谷 英 明 (75)	男	瑞 双	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	守 谷 澄 男 (73)	男	瑞 単	岡 山 県	元 津山市消防団 副団長	平 田 行 男 (64)	男
瑞 単	鳥 取 県	元 境港市消防団 分団長	木 村 廉 (74)	男	瑞 双	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	和田 修一郎 (70)	男	瑞 単	岡 山 県	元 真庭市消防団 分団長	堀 好 彦 (66)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
瑞 単	岡 山 県	元 真庭市消防団 副団長	牧 原 雅 幸 (64)	男
瑞 単	岡 山 県	元 新見市消防団 分団長	山 口 哲 夫 (75)	男
瑞 双	広 島 県	元 福山地区消防組合 消防正監	由 中 一 士 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 東広島市消防団 分団長	相 田 定 伸 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副分団長	大 内 忠 士 (81)	男
瑞 単	広 島 県	元 廿日市市消防団 分団長	大 前 和 義 (72)	男
瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 副団長	勝 田 勝 博 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 広島市安芸消防団 分団長	木 村 幸四郎 (86)	男
瑞 単	広 島 県	元 坂町消防団 分団長	小 橋 敏 夫 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 福山市消防団 副分団長	小 林 一 敏 (71)	男
瑞 単	広 島 県	元 江田島市消防団 副団長	小 松 庄 治 (72)	男
瑞 単	広 島 県	元 三次市消防団 分団長	澤 井 信 秀 (70)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
瑞 単	広 島 県	元 府中町消防団 副団長	六 戸 篤 (74)	男
瑞 単	広 島 県	元 甲奴町消防団 団長	清 水 良 治 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 広島市安佐北消防団 副団長	竹 田 博 文 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 広島市安佐南消防団 分団長	谷 口 正 行 (75)	男
瑞 単	広 島 県	元 高野町消防団 副分団長	永 田 豊 秋 (72)	男
瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副団長	西 浦 逸 志 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 戸河内町消防団 部長	深 井 千 春 (74)	男
瑞 単	広 島 県	元 豊松村消防団 団長	藤 原 和 則 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 福山市消防団 分団長	横 原 吉 宏 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 大竹市消防団 団長	丸 本 一 吉 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 東広島市消防団 副団長	三 好 哲 也 (70)	男
瑞 単	広 島 県	元 安芸高田市消防団 分団長	吉 本 幹 三 (72)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
瑞 双	山 口 県	元 岩国地区消防組合 消防正監	藤 本 博 己 (70)	男
瑞 双	山 口 県	元 萩市消防団 団長	三 浦 実 (74)	男
瑞 双	山 口 県	元 萩市消防団 団長	吉 松 利 之 (74)	男
瑞 単	山 口 県	元 山口市消防団 分団長	阿 部 豊 (76)	男
瑞 単	山 口 県	元 岩国市消防団 分団長	須 山 和 民 (76)	男
瑞 単	山 口 県	元 萩市消防団 副団長	田 島 康 朗 (75)	男
瑞 単	山 口 県	元 山口市消防団 副団長	三 山 雅 夫 (76)	男
瑞 単	山 口 県	元 田布施町消防団 分団長	中 野 喜久男 (67)	男
瑞 単	山 口 県	元 岩国市消防団 分団長	堀 田 賢 (75)	男
瑞 単	山 口 県	元 田布施町消防団 分団長	間 崎 茂 (69)	男
瑞 単	山 口 県	元 山口市消防団 副団長	宮 本 啓 一 (75)	男
瑞 双	徳 島 県	元 三好市西祖谷消防団 団長	梶 早 貴 司 (71)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
瑞 単	徳 島 県	元 阿波市消防団 団長	野 口 喜 生 (71)	男
瑞 単	徳 島 県	元 吉野川市消防団 副団長	村 本 和 幸 (72)	男
瑞 単	香 川 県	元 土庄町消防団 副団長	青 木 真 司 (61)	男
瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 分団長	赤 松 忠 雄 (79)	男
瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 分団長	川 崎 秀 則 (73)	男
瑞 単	香 川 県	元 直島町消防団 分団長	新 宮 正 三 (74)	男
瑞 単	香 川 県	元 坂出市消防団 分団長	高 尾 政 則 (71)	男
瑞 単	香 川 県	元 観音寺市消防団 分団長	豊 田 喜 平 (76)	男
瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 分団長	長 尾 正 幸 (83)	男
瑞 単	香 川 県	元 善通寺市消防団 分団長	南 光 紀 夫 (74)	男
瑞 単	香 川 県	元 宇多津町消防団 副団長	松 村 栄 一 (68)	男
瑞 単	香 川 県	元 多度津町消防団 分団長	山 本 豪 (75)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
瑞 単	愛 媛 県	元 広田村消防団 分団長	石 田 茂 宏 (65)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 今治市消防団 副団長	宇佐美 幸 雄 (67)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 小田町消防団 分団長	大 野 薫 喜 (76)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 副団長	島 谷 蘭 一 郎 (65)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 分団長	黒 田 英 俊 (67)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 新居浜市消防団 分団長	近 藤 和 徳 (81)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 西予市消防団 副団長	清 水 有 精 (65)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 西条市消防団 副団長	白 木 統 務 (65)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 四国中央市消防団 副団長	鈴 木 敬 二 (69)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 副団長	野 本 栄 喜 (65)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 西条市消防団 分団長	松 井 一 清 (65)	男
瑞 単	愛 媛 県	元 東温市消防団 団長	森 光 夫 (72)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
瑞 単	高 知 県	元 高幡消防組合津野消防団 副分団長	岡 林 豊 文 (68)	男
瑞 単	高 知 県	元 室戸市消防団 分団長	北 川 淳 (64)	男
瑞 単	高 知 県	元 高幡消防組合椿原消防団 副分団長	中 越 金 壽 (70)	男
瑞 単	高 知 県	元 四万十市消防団 分団長	水 澤 克 己 (76)	男
瑞 単	高 知 県	元 高知市消防団 分団長	福 井 雅 一 (73)	男
瑞 単	高 知 県	元 香美市消防団 副団長	山 地 正 明 (76)	男
瑞 単	高 知 県	元 越知町消防団 副団長	横 山 恵 三 (70)	男
瑞 単	高 知 県	元 香南市消防団 分団長	立 仙 圭 志 (64)	男
瑞 小	福 岡 県	元 久留米広城市町村團事務組合 消防正監	岩 橋 勝 幸 (70)	男
瑞 小	福 岡 県	元 北九州市 消防正監	山 本 敏 明 (70)	男
瑞 双	福 岡 県	元 遠賀町消防団 団長	肇 俊 一 (73)	男
瑞 双	福 岡 県	元 福岡市 消防正監	笠 俊 夫 (70)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	福 岡 県	元 大牟田市消防団 分団長	池 由 博 之 (70)	男
瑞 単	福 岡 県	元 豊前市消防団 副団長	一 木 治 喜 (68)	男
瑞 単	福 岡 県	元 飯塚市消防団 分団長	市 吉 英 男 (64)	男
瑞 単	福 岡 県	元 飯塚市消防団 副団長	稲 見 信 孝 (68)	男
瑞 単	福 岡 県	元 遠賀町消防団 副団長	太 山 歳 彦 (67)	男
瑞 単	福 岡 県	元 直方市消防団 分団長	岸 川 清 治 (69)	男
瑞 単	福 岡 県	元 桂川町消防団 分団長	久 保 康 弘 (66)	男
瑞 単	福 岡 県	元 田川市消防団 副団長	佐 野 誠 二 (72)	男
瑞 単	福 岡 県	元 北九州市八幡西消防団 副団長	下 川 英 西 (78)	男
瑞 単	福 岡 県	元 大任町消防団 分団長	鈴 木 松 雄 (72)	男
瑞 単	福 岡 県	元 川崎町消防団 分団長	萬 倉 由 和 (72)	男
瑞 単	福 岡 県	元 豊前市消防団 副団長	野 本 弘 (64)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	福 岡 県	元 飯塚市消防団 副団長	林 定 美 (76)	男
瑞 単	福 岡 県	元 赤村消防団 分団長	福 原 治 (71)	男
瑞 単	福 岡 県	元 行橋市消防団 分団長	楠 利 徳 (72)	男
瑞 単	福 岡 県	元 北九州市小倉北消防団 副団長	堀 省 司 (72)	男
瑞 単	福 岡 県	元 福岡市博多消防団 分団長	御手洗 英 夫 (74)	男
瑞 単	福 岡 県	元 糸田町消防団 分団長	村 上 一 宏 (68)	男
瑞 単	福 岡 県	元 みやこ町消防団 副団長	森 原 盛 繁 (77)	男
瑞 単	福 岡 県	元 福岡市博多消防団 分団長	米 田 征 治 (81)	男
瑞 小	佐 賀 県	元 佐賀中部広域連合 消防正監	大 島 豊 樹 (70)	男
瑞 双	佐 賀 県	元 小城市消防団 団長	秋 丸 政 光 (75)	男
瑞 単	佐 賀 県	元 武雄市消防団 分団長	草 場 勝 見 (66)	男
瑞 単	佐 賀 県	元 大町町消防団 副団長	鳥 谷 晃 男 (69)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	佐 賀 県	元 佐賀市消防団 副団長	中 島 義 弘 (69)	男
瑞 単	佐 賀 県	元 嬉野市消防団 分団長	中 林 止 則 (65)	男
瑞 単	長 崎 県	元 佐々町消防団 団長	池 田 新 治 (68)	男
瑞 単	長 崎 県	元 西海市消防団 分団長	鎌 田 悟 (74)	男
瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 分団長	川 上 久 幸 (80)	男
瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 副団長	古 場 信 行 (69)	男
瑞 単	長 崎 県	元 西有家町消防団 分団長	近 藤 利 光 (79)	男
瑞 単	長 崎 県	元 新上五島町消防団 団長	明 松 円 (65)	男
瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 分団長	時 津 總 積 (75)	男
瑞 単	長 崎 県	元 福江市消防団 副分団長	中 尾 安 暢 (83)	男
瑞 単	長 崎 県	元 諫早市消防団 副団長	松 本 秀 喜 (70)	男
瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 分団長	宮 崎 一 俊 (75)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 副団長	迎 篤 之 (69)	男
瑞 単	長 崎 県	元 雲仙市消防団 副団長	吉 岡 直 行 (68)	男
瑞 単	長 崎 県	元 松浦市消防団 分団長	吉 田 滿 次 (75)	男
瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 分団長	吉 村 敏 男 (78)	男
瑞 単	長 崎 県	元 新上五島町消防団 副団長	萬 屋 利 康 (70)	男
瑞 単	熊 本 県	元 水俣市消防団 副団長	石牟禮 亮 治 (64)	男
瑞 単	熊 本 県	元 芦北町消防団 副団長	入 江 政 彰 (67)	男
瑞 単	熊 本 県	元 天草市消防団 副団長	大 塚 公 洋 (64)	男
瑞 単	熊 本 県	元 御船町消防団 団長	米 田 明 昭 (64)	男
瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 副分団長	新 開 重 則 (78)	男
瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 副分団長	竹 村 廣 美 (79)	男
瑞 単	熊 本 県	元 玉名市消防団 団長	中 山 一 久 (64)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	熊 本 県	元 山江村消防団 分団長	日 熊 清 尊 (71)	男
瑞 単	熊 本 県	元 山鹿市消防団 団長	吉 家 正 一 (64)	男
瑞 単	熊 本 県	元 鹿北町消防団 分団長	松 永 伸 行 (71)	男
瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 副分団長	村 井 一 照 (84)	男
瑞 小	大 分 県	元 大分市 消防正監	小 野 寛 (70)	男
瑞 双	大 分 県	元 日出町消防団 団長	青 柳 潤 治 (73)	男
瑞 双	大 分 県	元 大分市消防団 団長	嵯 峨 健 司 (70)	男
瑞 単	大 分 県	元 別府市消防団 分団長	荒 金 日出夫 (77)	男
瑞 単	大 分 県	元 大分市消防団 分団長	上 杉 一 雄 (75)	男
瑞 単	大 分 県	元 日田市消防団 副団長	河 津 裕 治 (69)	男
瑞 単	大 分 県	元 豊後高田市消防団 副団長	是 水 裕 司 (71)	男
瑞 単	大 分 県	元 大分市消防団 分団長	佐 藤 民 雄 (75)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	大 分 県	元 宇佐市消防団 分団長	佐 藤 浩 (70)	男
瑞 単	大 分 県	元 別府市消防団 分団長	穴 龍 将 雄 (74)	男
瑞 単	大 分 県	元 豊後高田市消防団 分団長	進 藤 茂 毅 (79)	男
瑞 単	大 分 県	元 佐伯市弥生消防団 副団長	出 納 幸 男 (70)	男
瑞 単	大 分 県	元 日田市消防団 副団長	永 瀬 正 直 (70)	男
瑞 単	大 分 県	元 臼杵市連合消防団 臼杵消防団 分団長	原 山 弘 (66)	男
瑞 双	宮 崎 県	元 諸塚村消防団 団長	甲 斐 太 (64)	男
瑞 双	宮 崎 県	元 西都市消防団 団長	日 高 雅 信 (68)	男
瑞 単	宮 崎 県	元 日南市消防団 副団長	大田原 幸 男 (65)	男
瑞 単	宮 崎 県	元 高千穂町消防団 団長	佐 藤 春 男 (64)	男
瑞 小	鹿 児 島 県	元 鹿児島市 消防正監	藤 崎 誠 (70)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿屋市消防団 副団長	榎 原 秀 則 (73)	男



賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	鹿 児 島 県	元 垂水市消防団 副分団長	小野田 義 明 (75)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 大口市消防団 副分団長	上 村 広 盛 (71)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 日置市消防団 副団長	木 場 保 幸 (69)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 副分団長	三反田 忠 (78)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 姶良市消防団 団長	高 山 和 則 (69)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 錦江町消防団 分団長	中 迫 榮 (71)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 西之表市消防団 分団長	長 野 純 夫 (77)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 分団長	並 松 初 (80)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 薩摩川内市消防団 副団長	橋 口 浩 己 (69)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 分団長	濱 川 清 (73)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 伊佐市消防団 副団長	福 崎 和 美 (71)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 姶良市消防団 分団長	福 留 健 一 (79)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿屋市消防団 副団長	山 岡 謙 一 (74)	男
瑞 単	鹿 児 島 県	元 志布志市消防団 副団長	山 床 輝 文 (69)	男
瑞 単	沖 縄 県	元 石垣市消防団 団長	狩 俣 武 市 (61)	男
瑞 単	沖 縄 県	元 本部町今帰仁村消防組合消防団 団長	饒平名 知 也 (64)	男
旭 双	秋 田 県	現 秋田県女性防火クラブ連絡協議会 会長	安 部 千鶴子 (71)	女
旭 双	群 馬 県	現 群馬県女性防火クラブ連絡協議会 会長	小 俣 浪 子 (75)	女
旭 双	山 梨 県	現 (一社) 山梨県消防設備協会 副会長	柏 木 忠 邦 (79)	男
旭 双	京 都 府	元 (一社) 京都消防設備協会 会長	奥 村 昇 三 (72)	男
旭 双	兵 庫 県	現 (公財) 大阪府危険物安全協会 理事長	吉 田 龍 蔵 (70)	男
旭 双	大 分 県	現 大分県女性防火・防災クラブ連合会 会長	龍 川 晋代美 (70)	女
瑞 双	東 京 都	元 消防庁消防大学校 消防研究センター 火災災害調査部長	箭 内 英 治 (74)	男

## 令和5年秋の褒章受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
藍 綬	北 海 道	現 網走地区消防組合 東豪琴消防団 副団長	岩 崎 文 男 (63)	男	藍 綬	茨 城 県	現 八千代町消防団 団長	沢 木 清 司 (61)	男	藍 綬	東 京 都	現 荏原消防団 分団長	飯 塚 哲 郎 (72)	男
藍 綬	北 海 道	現 北見地区消防組合 訓子府消防団 副団長	竹 澤 哲 郎 (66)	男	藍 綬	栃 木 県	現 那須塩原市消防団 副団長	井 上 忠 義 (54)	男	藍 綬	東 京 都	現 足立消防団 副団長	石 井 康 行 (72)	男
藍 綬	青 森 県	現 平川市消防団 副団長	明 右 繁 光 (70)	男	藍 綬	栃 木 県	元 宇都宮市消防団 副団長	今 泉 知 明 (68)	男	藍 綬	東 京 都	現 町田市消防団 副団長	井 上 博 之 (63)	男
藍 綬	青 森 県	現 むつ市消防団 副団長	中 野 昌 勝 (62)	男	藍 綬	栃 木 県	現 宇都宮市消防団 副団長	加 藤 和 弘 (58)	男	藍 綬	東 京 都	現 八王子市消防団 副団長	小 俣 昭 三 (68)	男
藍 綬	秋 田 県	現 八郎潟町消防団 副団長	松 田 一 成 (67)	男	藍 綬	栃 木 県	現 那須塩原市消防団 副団長	菊 地 秀 彦 (56)	男	藍 綬	東 京 都	現 臨港消防団 副団長	酒 井 利 久 (71)	男
藍 綬	山 形 県	現 西川町消防団 分団長	佐 藤 正 (61)	男	藍 綬	群 馬 県	現 前橋市消防団 副団長	石 坂 初 夫 (66)	男	藍 綬	東 京 都	現 尾久消防団 副団長	佐々木 雅 一 (70)	男
藍 綬	山 形 県	現 舟形町消防団 副団長	庄 司 洋 一 (62)	男	藍 綬	群 馬 県	現 高崎市消防団 副団長	寺 崎 正 親 (60)	男	藍 綬	東 京 都	現 矢口消防団 副団長	鈴 木 豊 彦 (71)	男
藍 綬	山 形 県	現 寒河江市消防団 副団長	鶴 谷 晃 一 (64)	男	藍 綬	埼 玉 県	現 秩父市消防団 副団長	岡 田 貞 明 (57)	男	藍 綬	東 京 都	現 高輪消防団 副団長	渡嘉敷 直 誠 (71)	男
藍 綬	山 形 県	現 山辺町消防団 副団長	渡 邊 裕 一 (58)	男	藍 綬	千 葉 県	現 成田市消防団 副団長	鈴 木 康 則 (58)	男	藍 綬	東 京 都	元 上野消防団 副団長	野 内 茂 (75)	男
藍 綬	福 島 県	現 南会津町消防団 副団長	赤 井 美 洋 (63)	男	藍 綬	千 葉 県	現 千葉市消防団 副団長	田 中 和 幸 (58)	男	藍 綬	東 京 都	現 本田消防団 副団長	益 子 憲 一 (69)	男
藍 綬	福 島 県	現 会津若松市消防団 分団長	高 橋 祐 輔 (68)	男	藍 綬	千 葉 県	現 柏市消防団 副団長	根 本 肇 (55)	男	藍 綬	東 京 都	現 小岩消防団 副団長	皆 川 昭 久 (69)	男
藍 綬	福 島 県	現 相馬市消防団 副分団長	森 範 雄 (68)	男	藍 綬	千 葉 県	現 船橋市消防団 副団長	平 野 曉 郎 (58)	男	藍 綬	東 京 都	現 滝野川消防団 分団長	八 代 卓 智子 (80)	女

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	性別
紅 綬	東 京 都	人命救助者	佐 藤 務 (71)	男	藍 綬	山 梨 県	現 甲府市消防団 分団長	小 林 孝 明 (58)	男	藍 綬	三 重 県	現 伊賀市消防団 分団長	北 浦 斉 (54)	男
紅 綬	東 京 都	人命救助者	佐 藤 友 記 (51)	男	藍 綬	岐 阜 県	現 高山市消防団 副団長	坂 本 晃 尚 (59)	男	藍 綬	三 重 県	現 津市消防団 副団長	駒 田 弘 一 (72)	男
紅 綬	東 京 都	人命救助者	平 田 靖 一 (51)	男	藍 綬	岐 阜 県	現 白川村消防団 団長	下 方 健 弘 (55)	男	藍 綬	三 重 県	現 鈴鹿市消防団 分団長	鈴 木 清 (56)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市港南消防団 副団長	塩 澤 幸 博 (68)	男	藍 綬	岐 阜 県	現 中津川市消防団 副団長	遠 山 宣 孝 (58)	男	藍 綬	三 重 県	現 四日市市消防団 分団長	藤 井 一 由 (68)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市鶴見消防団 副団長	清 水 邦 夫 (66)	男	藍 綬	岐 阜 県	現 高山市消防団 副団長	中 村 善 幸 (58)	男	藍 綬	三 重 県	現 亀山市消防団 団長	松 尾 幸 夫 (76)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市都筑消防団 副団長	関 誠 人 (62)	男	藍 綬	岐 阜 県	現 岐阜市南消防団 副団長	三 島 浩 幸 (63)	男	藍 綬	滋 賀 県	現 甲賀市消防団 副団長	葛 原 千 也 (56)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市保土ヶ谷消防団 副団長	岡 隆 雄 (60)	男	藍 綬	岐 阜 県	現 中津川市消防団 副団長	安 江 恒 明 (57)	男	藍 綬	滋 賀 県	現 栗東市消防団 団長	中 村 泰 弘 (62)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市神奈川消防団 分団長	武 富 夫 (66)	男	藍 綬	岐 阜 県	現 瑞浪市消防団 副団長	渡 邊 良 昌 (57)	男	藍 綬	滋 賀 県	現 大津市消防団 副団長	面 村 伸 一 (58)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市金沢消防団 分団長	野 本 明 明 (66)	男	藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市中区消防団 副団長	内 海 千 秋 (74)	男	藍 綬	京 都 府	現 井手町消防団 副団長	窪 田 明 夫 (56)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 横須賀市消防団 副団長	廣 川 信 一 (61)	男	藍 綬	愛 知 県	元 安城市消防団 団長	太 田 佳 男 (50)	男	藍 綬	京 都 府	現 井手町消防団 団長	脇 田 英 訓 (51)	男
藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市川崎消防団 分団長	牧 田 誠 司 (73)	男	藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市中区消防団 副団長	大 森 森 次 (74)	男	藍 綬	大 阪 府	元 交野市消防団 分団長	大 野 喜 代孝 (71)	男
藍 綬	石 川 県	現 輪島市消防団 分団長	歌 見 敬 志 (65)	男	藍 綬	愛 知 県	現 北名古屋市中区消防団 副団長	武 藤 宣 浩 (63)	男	藍 綬	大 阪 府	現 池田市消防団 分団長	上 村 谷 寿 紀 (61)	男

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	性別
藍 綬	大 阪 府	現 高槻市消防団 副団長	寺 本 幸 司 (55)	男	藍 綬	福 岡 県	現 筑後市消防団 分団長	松 本 修 二 (57)	男	黄 綬	東 京 都	現 消防和防災 会長	木 下 善 雄 (74)	男
藍 綬	大 阪 府	現 吹田市消防団 副団長	八 田 光 正 (57)	男	藍 綬	福 岡 県	現 田川市消防団 分団長	山 元 義 隆 (64)	男	黄 綬	静 岡 県	現 御品山ボンズ製作 所 社長	昌 山 昭 夫 (59)	男
藍 綬	大 阪 府	現 高槻市消防団 分団長	米 山 利 治 (61)	男	藍 綬	福 岡 県	現 飯塚市消防団 副団長	吉 村 稔 宣 (58)	男	黄 綬	鳥 取 県	現 松谷ボンズ興 代表取締役	山 下 電 一 (58)	男
藍 綬	兵 庫 県	現 川西市消防団 団長	安 満 真 哉 (61)	男	藍 綬	熊 本 県	現 宇城市消防団 副団長	澤 村 忠 (52)	男					
藍 綬	奈 良 県	現 大和郡山市消防団 分団長	川 合 繁 治 (73)	男	藍 綬	宮 崎 県	現 延岡市消防団 分団長	池 田 博 則 (52)	男					
藍 綬	奈 良 県	現 東吉野村消防団 団長	松久保 久 永 (63)	男	藍 綬	宮 崎 県	現 都城市消防団 副団長	大 浦 隆 司 (58)	男					
藍 綬	岡 山 県	現 赤磐市消防団 団長	中 田 浩 二 (64)	男	藍 綬	宮 崎 県	現 延岡市消防団 分団長	中 斐 明 (56)	男					
藍 綬	福 岡 県	現 嘉麻市消防団 副団長	江 藤 正 男 (61)	男	藍 綬	宮 崎 県	現 都城市消防団 副団長	津 曲 俊 二 (63)	男					
藍 綬	福 岡 県	現 嘉麻市消防団 分団長	大 田 寛 行 (60)	男	黄 綬	北 海 道	現 興ヤシマ保全 代表取締役	下 山 元 明 (64)	男					
藍 綬	福 岡 県	現 田川市消防団 副団長	菅 沼 良 一 (67)	男	黄 綬	青 森 県	現 御城栄産業 代表取締役	相 嘉 繁 男 (76)	男					
藍 綬	福 岡 県	現 飯塚市消防団 分団長	大 力 美 徳 (63)	男	黄 綬	埼 玉 県	現 帝国繊維興 社 社長	榎 谷 徹 (75)	男					
藍 綬	福 岡 県	現 直方市消防団 分団長	福 永 信 一 (70)	男	黄 綬	千 葉 県	現 能美防災興 顧問	市 川 信 行 (68)	男					

## 公益財団法人 日本消防協会 ホームページのご案内

日本消防協会ホームページでは、各種案内をしています。

また、各種共済制度や年金制度の申請様式をダウンロードできますので、下記URLまたはQRコードからホームページにアクセスしてください。

<https://www.nissho.or.jp/>





## うちの団のPR



### 「自分たちの村は自分たちが守る」

秋田県 東成瀬村消防団

東成瀬村は秋田県の東南端に位置し、東は奥羽山脈を境に岩手県と、南は宮城県と、北と西は横手市、湯沢市と隣り合っています。村の面積は203.69km<sup>2</sup>であり、そのうち山林原野が93.9%、平地が6.1%、村を縦断する河川(成瀬川)に沿って集落が形成されています。

東成瀬村消防団は、3分団10部で組織されており、団員は会社勤務や自営業、農業などといった生業をもつかわら、火災をはじめ地震や風水害等の災害時には村の防災の要として地域を守るために活動しております。

また、山に詳しい団員においては村の山岳遭難救助隊へ加入をお願いし、春のタケノコ採りや秋のキノコ採りで遭難者搜索救助活動もしております。

さらに、実際の災害現場では消火活動や救助活動のみならず、負傷者の応急手当や搬送の付き添い、心のケアなど女性の視点からの助力が必要と考え、平成29年に女性消防団を結成しました。現在は11名が入団しており、村消防訓練大会の運営や救急救命講習の受講、秋田県消防協会湯沢市雄勝郡支部と連携し、小中学校や保育園で防災教室を開催し災害時の行動について普及啓発などの活動しております。

東成瀬村消防団は、地域防災力の核を担う組織として「自分たちの村は自分たちが守る」という精神の下に、今後も日々防災力の向上に努めてまいります。



うちの

# 名物団員



秋田県

東成瀬村消防団 団員

高谷 和道

東成瀬村消防団からは高谷和道団員を紹介します。消防団員として活動するほか、山岳遭難救助隊、猟友会にも属しており、高谷さんが村内で経営しているグルメペンション「お山の大将」は、現役マタギが経営する絶品マタギ料理の宿ということで人気を博しております。

誠実で人情深く、まっすぐな性格のため、団員からの信頼も厚く、若手団員からは兄貴と慕われている高谷さん。今後ますますの活躍が期待されます。



群馬県

高崎市消防団東部方面隊第4分団 分団長

高桑 利夫

高崎市消防団からは、髭がトレードマークの高桑分団長を紹介します。

平成5年に入団、現在は分団長で組織する分団長会の会長を務めています。

二十歳のころから地元神輿連合の団体に所属し、市内で行われる祭りの実施本部神輿部門長を務めて祭りを盛り上げています。

また、防犯委員としても約20年間活動しており、消防団員として防犯委員として、地域を見守る頼もしい存在で、今後様々な分野での活躍が期待されます。





伊那市消防団西春近分団 班長

仲村 啓助

伊那市消防団からは、西春近分団の仲村啓助班長を紹介します。

市役所で市の魅力を内外に向けて発信するために、地域ブランドのコンセプト形成と推進を担当し、地域の魅力向上に取り組む傍ら、江戸時代より始まったとされる、無形民俗文化財に指定されている長谷地区の農村歌舞伎「中尾歌舞伎」で役者として観客を楽しませながら、伝統文化を継承しています。

消防団には地域に貢献したいという思いから入団して、地域のリーダーとして精力的に活動しています。今後も様々な分野での活躍が期待されます。



井手町消防団 副団長

大西 正晃

京都府井手町消防団から大西正晃副団長を紹介します。大西さんは消防団歴27年のベテラン消防団員であり、明治35年創業の株式会社大西商店の代表取締役で、飲料・ガス販売や建設業等、幅広い事業を展開されており、平成30年からは新たにオーガニック商品の取扱いも始められ、経営者と消防団員の両方の立場から、地域住民の健康増進と安心・安全に活躍していただいております。





野洲市消防団から兵主分団の井狩辰也班長を紹介します。

井狩班長は普段は滋賀県議会議員として多忙な日々を送りながら、地元では地域の防災リーダーとして消防団活動に従事しています。特に今年度は、小型ポンプ操法の指揮者としてリーダーシップを発揮し、日々訓練に取り組み、県大会に出場しました。見事、上位入賞を果たし、自身の技能向上と併せて、地域防災の重要性を再認識したとのことでした。

今後も消防団活動、ポンプ操法を通じて感じたことを活かして、県政の防災リーダーとして更に活躍されることを期待しています。



逸見副団長は自営業を営みながら、38年余りの長きにわたり消防団で活動しています。普段は温厚な人柄で多くの団員に慕われていますが、ひとたび災害が発生すると現場へ急行し、熱い消防団魂で活動します。

そんな副団長はもう一つ「バイクツーリング」に熱い思いを持っています。気の合う消防団仲間とともに走るバイクツーリングで身も心もリフレッシュしています。

地域の安心安全のためこれからもよろしくお願いします。



## 小国町消防団 第5分団 副分団長

渡邊 孝治

小国町消防団からは渡邊孝治副分団長を紹介します。

熊本県の最北端に位置する小国町は、豊かな自然や地熱・温泉資源に恵まれ、杖立温泉・わいた温泉郷を中心とした観光業や農業が盛んな町となっています。

渡邊副分団長は杖立温泉で純和風旅館泉屋を営まれており、源泉かけ流しの温泉や、杖立温泉ならではの蒸し風呂、渡邊副分団長の作る熊本の季節を感じられる料理が評判の温泉旅館です。

消防活動においても火災時の消火活動や災害時の避難誘導等、地元の安全安心のため日々ご尽力いただいております、地域の方々から信頼される存在です。



## 長崎市消防団 梅香崎地区 第15分団 班長

金山 千尋

斜面市街地で活躍する長崎市消防団からは、女性消防団員として活動する金山千尋班長を紹介します。

金山班長は、20歳の時に、消防団の先輩である父や叔父の姿にあこがれて長崎市消防団に入団し、子育てをしながら消防団活動に奮闘しています。

また、昨年開催された長崎県消防ポンプ操法大会に1番員として出場し、男性顔負けの活躍により準優勝の成績を収めました。今後も消防団活動のいろんな分野に挑戦し、これからの女性消防団員活動の場を更に広げることを期待されています。



# 消防団の広場

秋田県

## 「これまでの活動をふりかえって」

東成瀬村消防団  
団員

佐藤 勝也



東成瀬村は秋田県南東部にあり、岩手県、宮城県との県境に接し、奥羽山脈の麓にあることから、毎年2～3mの積雪に見舞われる県内屈指の豪雪地域でもあります。

私は神奈川県横浜市の出身で、32才の時に秋田県の農業研修生に応募し、その研修終了後、知り合いや縁者がいたわけではなかった東成瀬村へと独りで移り住みました。今思い返してみると、それはかなり無謀な行動であったと思いますが、地域の方々は快く受け入れてくださり、様々な場面で私を助けてくださいました。

そうしたこともあって、消防団員のなり手が少ないため入ってもらえないだろうかというお誘いを受けた際、少しでも地域のお役に立てればという思いから、入団をしました。

私の所属する第三分団第三部は当時10名ほどの在籍で、私は入団2年目から小型ポンプ操法選手の2番員に選ばれ、一から手取り足取りその動作を教わりました。その年に臨んだ村の消防訓練大会では緊張でなにがなんだか分からないままに競技が終わってしまい、成績も奮いませんでしたが、大会に向けた日々の練習を通じて団員との親睦も深まり、地域の一員として少し認められたような気がしました。

その後、実際の火災現場へ出動したことも何度かありました。燃え盛る炎の中での消火活動は当たり前ですが、訓練とはまるで違う一刻を争う必死で懸命な作業で、日頃の訓練がどれだけ身についているかがとても重要なことだと痛感させられました。そして山間部地域においては、消防署から距離が離れているがゆえに消防団による初期消火活動が火災鎮火の大きな役割を担っていることも実感しました。

村の訓練大会・小型ポンプ操法の部では、出場10年目にして悲願の優勝を勝ち取ることができ、県大会へ進むという経験もしました。運動が得意ではなく、緊張するとすぐ膝が震えてしまうような自分がここまでやってこられたのは練習につきあってくださった団員や消防署員の方々の丁寧な指導やサポート、応援があったからこそです。そしてなによりも根気よく見守り、励まし、導いてくれた第三分団第三部の団員たちのおかげだと思います。

そうした感謝の思いを胸に、これからも地域のために少しでも役立てるよう、消防団活動に取り組んでいきたいと思っています。





## 2023年度 全国統一防火標語

# 「火を消して 不安を消して つなぐ未来」

## 令和6年1月の日本消防協会関係行事

令和6年1月16日(火)～19日(金)	第50回消防団幹部特別研修
令和6年1月22日(月)～2月5日(月)	中国消防研修視察団来日
令和6年1月26日(金)	全国消防殉職者遺族会理事会
令和6年1月31日(水)～2月2日(金)	第23回消防団幹部候補中央特別研修(男性の部)

## 編集後記

師走に入り、令和5年の編集もひと区切りを迎えようと1年を振り返りますと、コロナ以前よりも式典やイベントが目白押しだったと感じました。外へ出ることが躊躇われる時期が長く続いた反動からなのか、人の賑わいを至る所で感じられた1年でした。

さて、次の年はどんな年になるかと思いを巡らせながら編集作業をしていると、新年1月号から連載企画『消防団加入促進への取組み』が始まることから、いつもより慌ただしい年末になっています(汗)。消防団員が減少の一途を辿るなかで、日本全国の各消防団をみると、多種多様な努力・取組みを行っていることが分かりました。1月号を楽しみにご覧ください。また、我こそはという消防団の記事を是非ともお寄せいただきたいと思います。

本年も1年間ご愛読、ご指導をいただきまして、誠にありがとうございました。読者の皆さまには2024年も良き年になりますようお願い申し上げます。(T.M)

全国女性消防団員活性化石川大会が開催。4年ぶりとなる情報交流会は、2千人を優に超える超満員で、会の最初は身動きがとりにくいほどの大盛況。でも皆さん声を張って、積極的に情報交流をされていました。様々な郷土芸能も素晴らしかったです。と後記にこの行事を選び書きながら、ふとあれ写真を載せたっけと気になり、4年前の号を確認し、4年ぶりの大事な写真の掲載を抜かずに済みました。年の瀬を迎える中で、コロナ禍の4年の長さを改めて実感しました。

それはさておき、昼の部では、少し違った角度からの問題提起があった「ペットと防災」の話や「半纏などのリユース活動」の話、それから「消防団とジェンダー観—男性社会における女性消防団員」の話、さらには、女性初の県消防協会長の発言の数々などが特に印象深かったです。詳しい内容を本誌では紹介できなかったのが残念ですが、興味のある方は、近々大会の報告書(DVD付き。ほぼノーカット)が作成されますので、是非ご覧ください。

早いもので、今年も本号が最終号です。皆さん、よいお年を。(Y.T)

## 購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,496円  
(問合せ先) 総務部企画担当 03-6263-9401

## 寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受け付けています。 [kikou@nissho.or.jp](mailto:kikou@nissho.or.jp)

月刊「日本消防」第七十六巻第十二号  
令和五年十二月五日印刷  
令和五年十二月十日発行

編集人 田中 豊

発行所 (公財)日本消防協会

東京都港区東新橋一丁目十九

電話 〇三(6263)九四〇一(代)

印刷所

東京都中央区銀座七丁目一六二二

株式会社アイネット

電話 〇三(3549)五六〇〇

# 消防人の 火災共済

## 風水雪害等共済金 補償倍率UP 300倍から750倍へ

まさかの時お役に立ちます。

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)  
火災共済金375万円のお支払い

地震等災害見舞金付

**1500倍補償**

**B型火災共済**

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

**落雷の損害にも対応!!** 建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部（消防協会）へ。



ひまわりしているか  
ひのようじん

**お支払対象**

- 火災共済金
- 風水雪害等共済金
- 地震等災害見舞金

火災・落雷・爆発・破裂  
風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等  
地震・津波・噴火

**生活協同組合 全日本消防人共済会** TEL 03-6263-9822

詳しくはホームページをご覧ください <http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

# 消防個人年金

積立金には予定利率（年1.25%）、配当率が適用されます。

<p>老後生活に向けた 計画的な財産形成 が可能です。</p>	<p>月払の場合、 毎月一万円（ゆうちょ 銀行は五千元）から ご加入いただけます。</p>	<p>給付金の受取りは、 年金（6種類）又は 一時金からご選択 いただけます。</p>
<p>途中で脱退しても、 積立金（脱退一時金） が受け取れます。</p>	<p>税制適格コースは 個人年金保険料控除 自由選択コースは 一般の生命保険料控除 の対象となります。</p>	<p>消防団員、消防職員 の退団・退職後も 継続できます。</p>

（パンフレット・加入申込書のお取り寄せ、お問い合わせ先）

公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

**0120-658-494** 平日 9:00～17:00

お問い合わせ先

(公財)日本消防協会

〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-19  
ヤクルト本社ビル内  
TEL.(03)6263-9401 (代表)  
<https://www.nissho.or.jp>

各市町村の消防事務担当者または消防本部消防団事務担当者、都道府県消防協会